

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

（１）大学・学科の設置理念

①大学

大阪教育大学は、「我が国の先導的な教員養成大学として、教育の充実と文化の発展に貢献し、とりわけ教育界における有為な人材の育成を通して、地域と世界の人々の福祉に寄与する大学であることを使命とする。」を基本理念としている。

人口減少、Society5.0時代、グローバル化など社会が急速に変化し、予測困難な時代を迎えつつある中で、次世代を切り拓く子どもたちが備えるべき資質・能力もこれまでとは大きく異なり、豊かな創造力を備え、持続可能な社会の創り手として、社会の形成に参画するための資質・能力を確実に育成していくことが重要となる。子どもたちにこのような力を育成するために、本学では、教師自身が学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、デジタル技術を効果的に活用しながら、子ども一人一人の学びを最大限引き出すことができる力量や、「社会に開かれた教育課程」を通じて探究的な学びを実践できる力量、教科等横断的な視点で学習内容を組み立てられる力量等を備えた人材養成を進める。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

学校教育教員養成課程では、豊かな教養と広い視野、自ら教職力量を高め続けようとする姿勢を有し、これからの学校教員として求められる基礎的素養と、学校教育を取り巻く環境の変化に応じて、探究心をもって新しい知識や技能を学び、子どもの多様性の理解の下、幼児・児童・生徒一人一人の学びに寄り添うことができる教員を養成する。

（２）教員養成の目標・計画

①大学

本学では、国の政策や全国的な教育課題及び動向に加えて、大阪府・大阪市・堺市教育委員会をはじめとした近隣自治体の教育委員会や近隣の学校現場の課題・ニーズを恒常的に把握するために、教育委員会との連携協議会や、教育委員会幹部職員及び大阪府内小・中・高の校長会会長などによる提言委員会、府立高校教職コンソーシアムとの意見交換会等を活用し、地域の実情に即した教育の質の向上を図っている。

また、令和4年3月に文部科学省から教員養成フラッグシップ大学への指定を受け、「ダイバーシティ大阪の諸課題に応え、学習者の学びに寄り添う教師の育成」をテーマに、様々な取組を進めている。

特に先導的・革新的な教員養成カリキュラムとして、指定大学における単位の修得方法に関する特例制度を用いて、日本の教育課題が縮図化している大阪の教育課題に応えるため、ダイバーシティ教育を基盤とし、「子どもの多様性理解の下、学習者を中心とした授業実践力に優れ、学習者一人一人の学びに寄り添う教師」の育成を目的としたカリキュラムを開発している。令和5年度から特例科目を部分的に開講し、令和6年度からは全面的に開講することで、学校種を超えて子どもの発達を踏まえた学校教育全体を俯瞰できる教員を養成する。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

学校教育教員養成課程では、社会の在り方が劇的に変わるSociety5.0時代の到来やグローバル化等の訪れる変化を前向きに受け止め、探究心を持ちつつ主体的に新たな知識・技能を学び続けるとともに、学習者中心の授業実践力に優れ、個に応じた学習指導と一人一人の学びを引き出せる能力を備えた教員を養成するため、同課程の下に、幼小教育専攻、次世代教育専攻、教科教育専攻、特別支援教育専攻、小学校教育（夜間）5年専攻を置く。

これまで初等教育教員養成課程では、天王寺キャンパスの昼間および夜において、幼稚園から小学校への接続性についての理解を深めた教員養成の強化を図ってきたが、幼児教育・小学校教育との相互の接続を踏まえた総合的な視点を持つ実践力のある教員を養成するため、「初等教育教員養成課程」と「学校教育教員養成課程」を「学校教育教員養成課程」に一本化することにより一体的に展開する。また、変化が激しく予測困難な時代に対応するための学習観・授業観の転換を担う教師、すなわち、学習者中心の学びを支えることができる教師の育成を担うべく、児童生徒を理解する力や基礎的な指導力を身に付け、次世代を切り拓く子どもたちの様々な課題に対処でき、次世代の学校教育を牽引できる学校教員を養成する「次世代教育専攻

」を新設する。さらに、全国的に義務教育学校制度の活用による小中一貫教育の進展や、小学校高学年からの教科担任制の導入により、教員においては、児童生徒の発達の段階を考慮し、学校段階間の接続を見通して指導する力や、教科等横断的な視点で学習内容を組み立てる力等がこれまで以上に必要となることから、「教科教育専攻」において、小学校教諭一種免許状及び中学校教諭一種免許状の取得を卒業要件とし、中学校他教科・高等学校・特別支援学校の複数免許取得を可能とする体制への機能強化を図る。

【幼小教育専攻】

初等教育教員養成課程の「幼児教育専攻」と「小学校教育専攻昼間コース」を1つの専攻に再編し「幼小教育専攻」として新設し、同専攻の下に、幼児教育コースと小学校教育コースを置く。

幼児教育コースでは、幼稚園の保育指導に必要な知識・技能を修得し、幼児を中心とする保育指導を通じて、幼児が身近な環境に主体的に関わるように誘うとともに、小学校教育への接続を踏まえた幼児を理解する力、豊かな表現力及び高度な専門的実践力を身につけた教員を養成する。

小学校教育コースでは、幼児教育からの接続を踏まえた小学校の全教科にわたる教科指導に必要な知識・技能を修得し、児童を自律的な学習者として導くことを目的として、学習者を中心とする学習指導を通じて、児童の主体的な学びを支援するとともに、主体的・対話的で深い学びの充実に向けた授業改善に取り組みながら、学校教育の質の向上に寄与することができる教員を養成する。

【次世代教育専攻】

次世代教育専攻に、教育探究コースとICT教育コースを置く。

教育探究コースでは、学校教育の今日的課題の解決に必要な教育科学に関する知識・技能を修得し、学習者を中心とする主体的・対話的で深い学びと他者と協働した探究的な学びを通じて、児童生徒を自律的な学習者へと導くための学習指導と生徒指導のあり方を探究し続ける教員を養成する。

ICT教育コースでは、GIGAスクール構想による1人1台端末環境の整備が急速に進む中、これからの学校教育においては、ICTを基盤的なツールとして効果的に活用しながら、多様な課題を解決し、教育の質の向上につなげることのできる教師の育成を一層充実させるため、ICTリテラシー、データサイエンス、プログラミング、デジタル教材活用力等に関する高度な専門的知識・技能を修得し、学校内のICT普及促進、ICT活用による校務効率化や授業開発などの教育課題の発見・解決や、児童生徒の個に応じた主体的な学びの支援による学校教育の質の向上について、リーダー的役割を担える教師を養成する。

【教科教育専攻】

従前の「小中教育専攻」と「中等教育専攻」を「教科教育専攻」として大括りし、その下に「国語」「英語」「社会」「数学」「理科」「家庭科」「技術」「保健体育」「音楽」「美術・書道」の10教科による各コースを置く。

人材像としては、小・中・高等学校の各教科指導に必要な知識・技能を修得し、児童生徒を自律的な学習者へと導くことを目的として、学習者を中心とする学習指導を通じて、児童生徒の主体的な学びを支援するとともに、主体的・対話的で深い学びの充実に向けた授業改善に取り組みながら、学校教育の質の向上に寄与することができる教科指導力のある教員を養成する。

【特別支援教育専攻】

特別支援学校及び通常の学校における特別支援教育の各領域を指導するために必要な知識・技能と児童生徒を自律的な学習者として導く視点を有し、子どもの多様性の理解の下、児童生徒一人一人の学びに寄り添い、学習者に応じた学習指導を行うとともに、インクルーシブ教育の理念と環境整備の必要性を理解して、障がいのある子どもとない子どもがともに学ぶ教育を担うことのできる教員を養成する。

【小学校教育（夜間）5年専攻】

従前の初等教育教員養成課程の「幼児教育専攻」と「小学校教育専攻昼間コース」を「幼小教育専攻」に一本化することに伴い、同課程の「小学校教育専攻夜間コース」は、従前と同様の組織体制を維持しつつ、「小学校教育（夜間）5年専攻」と名称を変更する（3年次編入学含む）。

同専攻では、小学校の全教科にわたる教科指導に必要となる知識・技能を有し、児童を自律的な学習者として導くことを目的として、学習者を中心とする学習指導を通じて、児童の主体的な学びを支援するとともに、主体的・対話的で深い学びの充実に向けた授業改善に取り組みながら、個々の多様な経験に基づく知識・技能を生かして学校教育の質の向上に寄与することができる個性豊かな教員を養成する。

（3）認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

〔学校教育教員養成課程〕

【幼稚園教諭一種免許状】

幼児期から児童期の発達と学びの特徴並びに幼稚園教育に関わる制度や歴史を理解することができるカリキュラムを設定する。実践的・臨床的カリキュラム編成理論、障がい多文化共生保育など幼児期の臨床的諸課題にも対応する態度と基礎を培うための科目を履修する。並行して1年次から幼稚園等での実習に取り組み、2・3年次でのインターンシップ、3年次での教育実習、そして4年次でのインターンシップやボランティア活動等を通して、学生が自ら課題を見つけられる機会を設けることで実践力の高い幼稚園教員を養成する。

【小学校教諭一種免許状】

幼小教育専攻小学校教育コースでは、小学校の全教科に関する幅広い知識・技能・指導力を修得するとともに、ICT機器の活用、発達障がい、多文化共生など今日的な教育課題に対応できる能力を培うための科目を設ける。また、幼児教育と小学校教育の連携についての理解を図るためのカリキュラムを設定することで実践力の高い小学校教員を養成する。

次世代教育専攻教育探究コースでは、教育学、心理学、道徳教育学の専門的知識のほか、子どもの学びを引き出す学習指導と生徒指導、社会の課題と教科指導をつなげるカリキュラム・マネジメント、子ども一人一人の学びの意欲を引き出すファシリテーションスキル等を修得し、不登校児童・生徒や様々な課題を抱える児童生徒への対応を可能とし、次世代の学習指導と生徒指導力を育成するためのカリキュラムを設定することで、児童生徒を自律的な学習者へと導くための学習指導と生徒指導のあり方を探究し続ける小学校教員を養成する。

教科教育専攻では、小学校の各教科の指導法に関する理解を深め、ICTを活用した学習指導方法、アクティブ・ラーニングを取り入れた指導計画の立案や授業づくりができる能力、子どものやる気を引き出す教材研究を行いながら、主体的な学びを支援する学習指導を構想することができる能力、小学校の教科担任制を見通した教科指導ができる能力を育成するためのカリキュラムを設定することで、学校教育の質の向上に寄与することができる教科指導力のある小学校教員を養成する。

小学校教育（夜間）5年専攻では、小学校の全教科に関する幅広い知識・技能・指導力やICT機器の活用、発達障がい、多文化共生など今日的な教育課題に対応できる能力など、小学校教育に関する最先端の知見や指導力を育成するためのカリキュラムを設定する。また、学校インターンシップ、教育支援サポーター、学童保育など、天王寺キャンパスを拠点に総合的な教育実践力を主体的に育むための科目を設けることで、個々の多様な経験に基づく知識・技能を生かして学校教育の質の向上に寄与することができる個性豊かな小学校教員を養成する。

【中学校・高等学校教諭一種免許状（国語）】

中学校・高等学校の国語科の教科指導に関する理解を深め、ICTを活用した学習指導方法、アクティブ・ラーニングを取り入れた指導計画の立案や授業づくりができる能力、子どものやる気を引き出す教材研究を行いながら、主体的な学びを支援する学習指導を構想することができる能力、小学校の教科担任制を見通した教科指導ができる能力を育成するためのカリキュラム

を設定することで、学校教育の質の向上に寄与することができる教科指導力のある中学校・高等学校教員を養成する。

【中学校・高等学校教諭一種免許状（英語）】

中学校・高等学校の英語科の教科指導に関する理解を深め、ICTを活用した学習指導方法、アクティブ・ラーニングを取り入れた指導計画の立案や授業づくりができる能力、子どものやる気を引き出す教材研究を行いながら、主体的な学びを支援する学習指導を構想することができる能力、小学校の教科担任制を見通した教科指導ができる能力を育成するためのカリキュラムを設定することで、学校教育の質の向上に寄与することができる教科指導力のある中学校・高等学校教員を養成する。

【中学校教諭一種免許状（社会）】

中学校の社会科の教科指導に関する理解を深め、ICTを活用した学習指導方法、アクティブ・ラーニングを取り入れた指導計画の立案や授業づくりができる能力、子どものやる気を引き出す教材研究を行いながら、主体的な学びを支援する学習指導を構想することができる能力、小学校の教科担任制を見通した教科指導ができる能力を育成するためのカリキュラムを設定することで、学校教育の質の向上に寄与することができる教科指導力のある中学校教員を養成する。

【高等学校教諭一種免許状（地理歴史）】

高等学校の地理歴史科の教科指導に関する理解を深め、ICTを活用した学習指導方法、アクティブ・ラーニングを取り入れた指導計画の立案や授業づくりができる能力、子どものやる気を引き出す教材研究を行いながら、主体的な学びを支援する学習指導を構想することができる能力、小学校の教科担任制を見通した教科指導ができる能力を育成するためのカリキュラムを設定することで、学校教育の質の向上に寄与することができる教科指導力のある高等学校教員を養成する。

【高等学校教諭一種免許状（公民）】

高等学校の公民科の教科指導に関する理解を深め、ICTを活用した学習指導方法、アクティブ・ラーニングを取り入れた指導計画の立案や授業づくりができる能力、子どものやる気を引き出す教材研究を行いながら、主体的な学びを支援する学習指導を構想することができる能力、小学校の教科担任制を見通した教科指導ができる能力を育成するためのカリキュラムを設定することで、学校教育の質の向上に寄与することができる教科指導力のある高等学校教員を養成する。

【中学校・高等学校教諭一種免許状（数学）】

中学校・高等学校の数学科の教科指導に関する理解を深め、ICTを活用した学習指導方法、アクティブ・ラーニングを取り入れた指導計画の立案や授業づくりができる能力、子どものやる気を引き出す教材研究を行いながら、主体的な学びを支援する学習指導を構想することができる能力、小学校の教科担任制を見通した教科指導ができる能力を育成するためのカリキュラムを設定することで、学校教育の質の向上に寄与することができる教科指導力のある中学校・高等学校教員を養成する。

【中学校・高等学校教諭一種免許状（理科）】

中学校・高等学校の理科の教科指導に関する理解を深め、ICTを活用した学習指導方法、アクティブ・ラーニングを取り入れた指導計画の立案や授業づくりができる能力、子どものやる気を引き出す教材研究を行いながら、主体的な学びを支援する学習指導を構想することができる能力、小学校の教科担任制を見通した教科指導ができる能力を育成するためのカリキュラムを設定することで、学校教育の質の向上に寄与することができる教科指導力のある中学校・高等学校教員を養成する。

【中学校教諭一種免許状（技術）】

中学校の技術科の教科指導に関する理解を深め、ICTを活用した学習指導方法、アクティブ・ラーニングを取り入れた指導計画の立案や授業づくりができる能力、子どものやる気を引き出す教材研究を行いながら、主体的な学びを支援する学習指導を構想することができる能力、小学校の教科担任制を見通した教科指導ができる能力を育成するためのカリキュラムを設定する

ことで、学校教育の質の向上に寄与することができる教科指導力のある中学校教員を養成する。

【高等学校教諭一種免許状（工業）】

高等学校の工業科の教科指導に関する理解を深め、ICTを活用した学習指導方法、アクティブ・ラーニングを取り入れた指導計画の立案や授業づくりができる能力、子どものやる気を引き出す教材研究を行いながら、主体的な学びを支援する学習指導を構想することができる能力、小学校の教科担任制を見通した教科指導ができる能力を育成するためのカリキュラムを設定することで、学校教育の質の向上に寄与することができる教科指導力のある高等学校教員を養成する。

【中学校・高等学校教諭一種免許状（家庭）】

中学校・高等学校の家庭科の教科指導に関する理解を深め、ICTを活用した学習指導方法、アクティブ・ラーニングを取り入れた指導計画の立案や授業づくりができる能力、子どものやる気を引き出す教材研究を行いながら、主体的な学びを支援する学習指導を構想することができる能力、小学校の教科担任制を見通した教科指導ができる能力を育成するためのカリキュラムを設定することで、学校教育の質の向上に寄与することができる教科指導力のある中学校・高等学校教員を養成する。

【高等学校教諭一種免許状（情報）】

高等学校の情報科の教科指導に関する理解を深め、ICTリテラシー、データサイエンス、プログラミング、デジタル教材活用等に関する知識・技能を修得するための学びと、これらを基礎にデジタル教材を活用した授業改善や、データ活用による教育課題解決など、ICT環境や先端技術を教育現場に最適化するための実践方法を修得するためのカリキュラムを設定することで、学校内のICT普及促進、ICT活用による校務効率化や授業開発などの教育課題の発見・解決や、児童生徒の個に応じた主体的な学びの支援による学校教育の質の向上について、リーダー的役割を担える高等学校教員を養成する。

【中学校・高等学校教諭一種免許状（保健体育）】

中学校・高等学校の保健体育科の教科指導に関する理解を深め、ICTを活用した学習指導方法、アクティブ・ラーニングを取り入れた指導計画の立案や授業づくりができる能力、子どものやる気を引き出す教材研究を行いながら、主体的な学びを支援する学習指導を構想することができる能力、小学校の教科担任制を見通した教科指導ができる能力を育成するためのカリキュラムを設定することで、学校教育の質の向上に寄与することができる教科指導力のある中学校・高等学校教員を養成する。

【中学校・高等学校教諭一種免許状（音楽）】

中学校・高等学校の音楽科の教科指導に関する理解を深め、ICTを活用した学習指導方法、アクティブ・ラーニングを取り入れた指導計画の立案や授業づくりができる能力、子どものやる気を引き出す教材研究を行いながら、主体的な学びを支援する学習指導を構想することができる能力、小学校の教科担任制を見通した教科指導ができる能力を育成するためのカリキュラムを設定することで、学校教育の質の向上に寄与することができる教科指導力のある中学校・高等学校教員を養成する。

【中学校・高等学校教諭一種免許状（美術）】

中学校・高等学校の美術科の教科指導に関する理解を深め、ICTを活用した学習指導方法、アクティブ・ラーニングを取り入れた指導計画の立案や授業づくりができる能力、子どものやる気を引き出す教材研究を行いながら、主体的な学びを支援する学習指導を構想することができる能力、小学校の教科担任制を見通した教科指導ができる能力を育成するためのカリキュラムを設定することで、学校教育の質の向上に寄与することができる教科指導力のある中学校・高等学校教員を養成する。

【高等学校教諭一種免許状（書道）】

高等学校の書道科の教科指導に関する理解を深め、ICTを活用した学習指導方法、アクティブ・ラーニングを取り入れた指導計画の立案や授業づくりができる能力、子どものやる気を引き出す教材研究を行いながら、主体的な学びを支援する学習指導

を構想することができる能力、小学校の教科担任制を見通した教科指導ができる能力を育成するためのカリキュラムを設定することで、学校教育の質の向上に寄与することができる教科指導力のある高等学校教員を養成する。

【特別支援学校一種免許状（視・聴・知・肢・病）】

特別支援学校及び通常の学校（通常の学級、特別支援学級、通級指導教室）における教育に携わるための知識・技能を習得するためのカリキュラムを設定する。2年次以降は、視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい、肢体不自由、病弱、発達障がいの6つの障がい種のいずれかのコースに所属して、それぞれの専門領域に関する授業や学校インターンシップ科目を受講し専門性を深めるとともに、インクルーシブ教育の理念と特別支援教育全般にわたる幅広い知識・技能を身に付けることで、障がいのある子どもとない子どもがともに学ぶ教育を担うことのできる特別支援学校教員を養成する。

様式第7号イ

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

①

組織名称：	基幹教育推進機構会議
目 的：	学部学生の教養教育科目及び教職関連科目など重点基盤となる共通教育科目並びに教職課程の教育実践に関する事項を基幹教育として全学的観点から強化整備し、実施を推進する。 (1) 基幹教育の基本方針の策定に関すること。 (2) 基幹教育の実施の推進に関すること。 (3) 基幹教育の評価の実施に関すること。 (4) その他基幹教育に関する重要事項
責 任 者：	機構長
構成員（役職・人数）：	(1) 機構長 1 人 (2) 副機構長 3 人 (3) 機構長が必要と認めた者
運営方法：	学務部教務課で議題を整理しながら、機構長が招集し、年2回程度の、定期的な開催を予定している。機構会議は、学位プログラムを構成する教養教育及び教職関連科目などの共通教育科目及び教職課程の実践に関する事項を基幹教育として強化整備することを主目的に置くが、教職科目の企画・立案、実施を中心に扱う専門部会と、教育実習を中心とした教育実践を取り扱う専門部会を設置し、専門的領域の立場からの審議を踏まえ、相互に連携しながら運営を行う。教職課程に関わる具体的な議題としては、令和6年度学部改組に対応する教職課程実施に向けた諸準備、4年間の積み上げ方式による各教育実習の見直しや学校インターンシップの企画・立案及び実施に関するものがある。

②

組織名称：	基幹教育推進機構教職課程専門部会
目 的：	部会は、教職課程の編成と実施に関して総括し、次の各号に掲げる事項の具体的方策について協議し、その連絡調整と実施にあたる。 (1) 教職課程の運営に関する事項 (2) 教職基礎科目・教職関連科目・小学校教科専門科目の開講に関する事項 (3) 教職基礎科目・教職関連科目・小学校教科専門科目を担当する教員配置に関する事項 (4) 教職課程の自己点検・評価に関する事項 (5) その他教職課程に必要な授業科目に関する事項
責 任 者：	副機構長
構成員（役職・人数）：	(1) 機構長が指名する副機構長 1 人 (2) 教務課長 (3) 教員養成課程長が推薦する教員 4 人 (4) 教育協働学科長が推薦する教員 2 人

様式第7号イ

(5)地域連携・教育推進センター長が推薦する教員 1人 (6)機構長が指名する教員 若干人
運営方法： 学務部教務課で議題を整理しながら、副機構長が招集し、年3回程度の、定期的な開催を予定している。専門部会は、教職課程の編成と実施に関して総括することを主目的とし、教職基礎科目・教職関連科目・小学校教科専門科目について専門的領域の立場から審議を行っている。教職課程に関わる具体的な議題としては、令和6年度学部改組に対応する教職課程実施に向けた諸準備に関するものがある。

③

組織名称： 教務委員会
目的： 次の各号に掲げる事項について企画立案し、その調整にあたる。 (1) 教育課程の編成及び実施に関する事項 (2) 教育内容及び教育方法等の改善に関する事項 (3) 科目等履修生、特別聴講学生及び研究生等に関する事項 (4) その他教務に関する重要事項
責任者： 副学長
構成員（役職・人数）： (1) 副学長 1人 (2) 学長補佐 2人 (3) 教員養成課程長が推薦する教員 2人 (4) 教育協働学科長が推薦する教員 2人 (5) 学務部長 (6) 学長が指名する職員若干人
運営方法： 学務部教務課で議題を整理しながら、副学長が招集し、年12回程度、定期的に開催している。個別のテーマについては専門部会を設置して議論を深めるとともに、適宜、各部局への意見照会などを行いながら運営している。教職課程に関わる最近の具体的な議題としては、令和6年度学部改組に対応するカリキュラム改正を中心に、第4期中期目標・中期計画への対応や各種教学関連規程の改正などがある。

④

組織名称： 教員養成課程教務委員会
目的： 教員養成課程の教学に関する以下の事項を審議・検討するとともに、教員養成課程運営委員会に付議する原案を作成する。 (1) 教育課程に関する事項 (2) 履修指導に関する事項 (3) 単位の認定に関する事項 (4) 科目等履修生及び特別聴講学生等に関する事項 (5) その他学部教務に関する事項
責任者： 教員養成課程教授会から選出される教員から委員会において選出

様式第7号イ

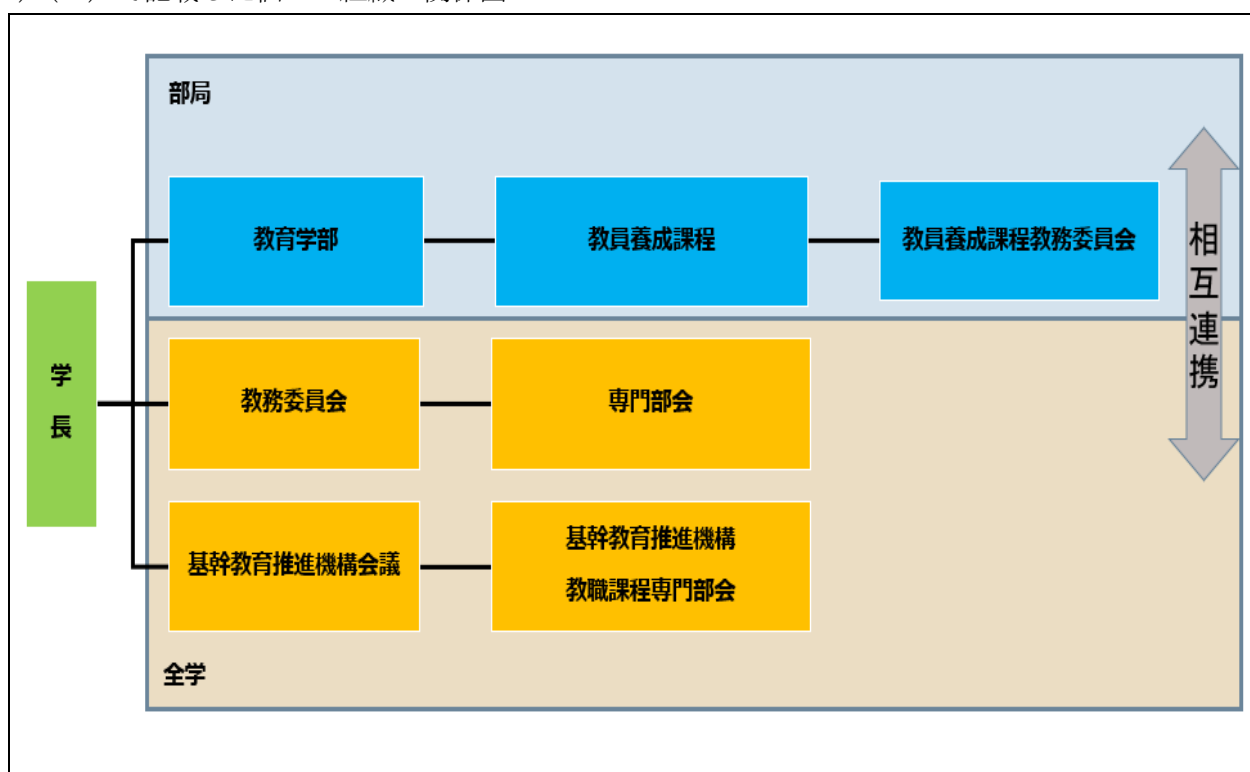
構成員（役職・人数）： 委員会は、次に掲げる者で組織する。

- （１） 副主事 1 人
- （２） 教員養成課程教授会から選出される教員 5 人
- （３） 教員養成課程長が指名する教員若干人

運営方法：

委員長が招集し、年 5 回程度、定期的を開催している。全学教務委員会から検討依頼のあった上記事項に係る案件や、教員養成課程のカリキュラム、教養教育などの共通科目などの授業内容、教育実習との接続などに関して、関係教員の意見を踏まえ、審議を行う。

（２）（１）で記載した個々の組織の関係図



Ⅱ. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

（１）教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

本学では、大阪府、大阪市、堺市などの教育委員会の経験のあるものを積極的に登用する人事により、6 名程度の教員を確保し、学校現場の実際に即したカリキュラムや授業内容の企画・立案に反映させている。令和 6 年度は、大阪府・大阪市の実務家教員 4 名の配置計画をしている。

また、教員養成カリキュラム全般や、教育実習科目の実施方法などについて、教育委員会や学校現場からの意見を聴取して運営に反映させる方法として、本学各附属学校園との「合同会議」、大阪府教育委員会、大阪市教育局、堺市教育局、協力市との「教育実習拡大連絡協議会」を設置し、また必要に応じて専門部会を設けることで、年数回の協議を行っている。

（２）学校現場における体験活動・ボランティア活動等

様式第7号イ

①

取組名称：	学校サポート活動（ボランティア活動）
連携先との調整方法：	平成14年に行われた大阪府教育委員会と締結した「連携・協力に関する協定書」を機に、「教育現場の実態を知り、社会性を身につけ、教育理論と実践の接点を体験し、子どもとのコミュニケーション能力等について学ぶ」ことを目的として、「学校サポート活動」を行ってきた。平成18年度からは、大阪府教育委員会の「自学自習力育成事業」や市町村教育委員会を通して募集している学校園の様々なサポート活動への参加など、「学校サポート活動」を、継続・発展させている。
具体的な内容：	学生が、自らの問題意識に応じて公立学校（幼稚園を含む）を選択し、主体的に学校や児童・生徒に働きかけ、学校の教育に参画していくサポート活動を通して、児童・生徒や教職に対する理解を深め、コミュニケーション能力など、総合的な指導力の向上を図る。

②

取組名称：	学校インターンシップ
連携先との調整方法：	上述の「学校サポート活動」を単位化し、発展させた取組みであり、これまでの調整方法に準じて取り扱う。
具体的な内容：	学校に出向いて授業、教職、生徒などを観察し、また教師の仕事の簡単な補助を体験する。そのために、生徒や授業を観察する視点や方法、観察や活動の記録の取り方などの事前指導をおこなう。インターンシップの後に、体験をふりかえり、教職への展望を持つ。

Ⅲ. 教職指導の状況

本学教育学部においては、各専攻・コースを担当する専任教員が4月の授業開始前に実施する入学時オリエンテーションにおいて、カリキュラムの概要や各専攻・コースでの学びの方法、実習の進め方などについて全体的な説明を行う。

学生は、4年間の学びを進める中で、履修カルテと教育実習カルテから構成するポートフォリオを作成し、指導教員と各学期末に行う面談を卒業まで継続して行い、個別の課題を克服していく。

面談の中では、履修カルテによる学期ごとの学びの履歴の確認と次期学期での学習の計画の立案を行うとともに、4年間の積上げ型教育実習における、その時々成果と課題を踏まえ、必要な指導や助言を受ける。

教員養成カリキュラムでの最終段階である、4年次の教職実践演習では、3段階にわたり、学修を進める。第1段階では、履修カルテによる自己分析・課題確認を行う。第2段階では、個別課題に対応する講座を受講し、補完・発展を行う。第3段階では、課題に応じた補完・発展学習の成果の確認を行うとともに、本学が定めた教員としての必要とされる資質・能力が有機的に形成されているかの最終確認を併せて行う。

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：幼一種免）

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職の意義や教員の役割、職務内容について学び、教職への動機づけを図る。また、子どもの発達および学びの基礎的過程とその「みとり」、幼児の情動と社会性の発達、障がいのある子どもの理解と支援、保護者の支援などについて理解する。さらに、現代社会におけるダイバーシティの基本理念や子どもの諸権利、インクルーシブ教育の理念についての理解を深める。 また、幼稚園教諭として必要となる各領域に関する基礎的知識・技能を修得する。特にピアノ表現演習Ⅰでは、子どもの表現力を豊かにするための演奏技能の習得を目指す。また、自身の被教育経験を相対化し、多様な学校教育の可能性に照らして個別具体的な学校現場の経験から学び続けるための素地を形成する。
	後期	教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解する。特別支援教育の理念、障がい観・人間観について理解を深めるとともに、外国にルーツのある子どもの多様性の理解及びその支援等の理解を深める。 また、幼稚園教諭として必要となる各領域に関する基礎的知識・技能を修得する。 また基礎的技能として、ピアノ表現演習Ⅱでは、Ⅰに引き続き子どもの表現力を豊かにするための演奏技能の習得を目指す。
2年次	前期	人権侵害や差別の現状、子どもの生活背景について理解し、幼稚園の役割についての基礎知識を修得するとともに、遊びなどの指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。 また、幼稚園教諭として必要となる保育指導に関する基礎的知識・技能を総合的に修得するとともに、「幼児教育インターンシップ」による現場観察・実習を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。
	後期	幼稚園教育要領を踏まえ、今日の保育実践の方法と技術を身につける。 教材研究やその活用の方法を習得するとともに、保育指導案を作成し、それに基づいて模擬保育を実施し、保育実践の基本を身につける。また、生涯にわたる教師の発達と学習のあり方、および教師の学びを支える教員研修の意義及び制度上の位置づけを理解し、教師としての学びを実践する。
3年次	前期	幼稚園教育要領の特徴や変遷などをふまえ、教育課程編成の視点を身につける。今日の幼児期・児童期の子どもたちが抱える様々な課題や実態を多角的に把握するとともに、接続期における幼稚園等と小学校の取り組みについて、多様な事例を知る。さらに、これから必要な連携のあり方について考察し、自らの保育・教育観をきたえる。
	後期	今日の幼児期・児童期の子どもたちが抱える様々な課題や実態を多角的に把握するとともに、接続期における幼稚園等と小学校の取り組みについて、多様な事例を知る。さらに、これから必要な連携のあり方について考察し、自らの保育・教育観をきたえる。 これまでの科目を修得した上で附属幼稚園での実習を行い、保育現場における経験から、成果と課題を再認識する。 その後、最新の保育課題や子育ての課題や対策実践についての知見を、各種メディアや専門研修機関の情報誌やサイトを通して主体的に収集する。そして、その知見を吟味し、自らの意見を述べあうことで、実践の主体者としての意識を涵養する。
4年次	前期	教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。
	後期	4年間の教職課程の集大成として、教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：幼一種免）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		保育内容の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	領域に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
1年次	前期	教職へのとびら	幼児と健康	ダイバーシティと教育	日本国憲法	
		発達と学習の心理学	幼児と人間関係	現代社会と子どもの権利	スポーツ実技a	
			幼児と表現Ⅰ	多様な子どもとインクルーシブ教育	情報活用基礎Ⅰ	
				社会（ICTの活用を含む。）	情報活用基礎Ⅱ	
				算数（ICTの活用を含む。）		
				教職のための省察入門		
				ピアノ表現演習Ⅰ		
	後期	教育総論	幼児と環境	特別支援教育の実践	スポーツ実技b	
		特別支援教育の基礎	幼児と言葉	外国人の子どもの理解と支援		
			幼児と表現Ⅱ	国語（書写及びICTの活用を含む。）		
				理科（ICTの活用を含む。）		
				音楽（ICTの活用を含む。）		
				ピアノ表現演習Ⅱ		
	通年	幼児理解と教育相談				
2年次	前期	学校の役割と経営		人権教育の基礎	外国語コミュニケーション	
		学校安全		発達障害教育論		
		健康の指導法		生活（ICTの活用を含む。）		
		環境の指導法		家庭（ICTの活用を含む。）		
		表現の指導法Ⅰ				
	後期	幼児教育指導法		図画工作（ICTの活用を含む。）		
		表現の指導法Ⅱ		体育（ICTの活用を含む。）		
		人間関係の指導法				
		言葉の指導法				
	通年			教職専門性と省察		
				幼児教育インターンシップ		
3年次	前期	幼児教育課程論		幼小連携教育論Ⅰ		
	後期	教育実習		幼小連携教育論Ⅱ		
				人権教育の実践		
				英語（ICTの活用を含む。）		
4年次	前期					
	後期	教職実践演習				

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：小一種免）

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職の意義や教員の役割、職務内容について学び、教職への動機づけを図る。さらに、子どもの発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸問題、教育測定と評価などについて理解するとともに、現代社会におけるダイバーシティの基本理念や子どもの諸権利、インクルーシブ教育の理念についての理解を深める。 小学校教諭として必要となる各教科に関する基礎的知識・技能を修得する。また、自身の被教育経験を相対化し、多様な学校教育の可能性に照らして個別具体的な学校現場の経験から学び続けるための素地を形成する。
	後期	教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解する。さらに外国にルーツのある子どもの多様性の理解及びその支援等の理解を深める。 また、小学校教諭として必要となる各教科に関する基礎的知識・技能を修得する。
2年次	前期	人権侵害や差別の現状、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。 また、今日における生徒指導上の諸問題に関する理論的・実践的な認識や情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方を身につけるとともに、小学校科教諭に必要な学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。 さらには、学校インターンシップによる現場観察・実習を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。 教材開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身につける。同時に教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する基礎的な知識・技能やデータの収集と理解の基礎となる考え方および基礎的なデータ収集・分析の手法を修得する。
	後期	学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、今日の授業づくりの方法と技術を身につける。 教育ファシリテーションの理論的背景、基礎に関する知識を学ぶとともに、現代までの教育から学習者中心の授業改善プロセスを構想する授業づくりの原理を理解する。さらに、生涯にわたる教師の発達と学習のあり方、および教師の学びを支える教員研修の意義及び制度上の位置づけを理解し、教師としての学びを実践する。 教材開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身につける。
3年次	前期	総合的な学習の時間の意義や歴史、指導法について理解する。また、教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。さらに、教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する発展的な知識・技能を学ぶとともに、多様なデータの特徴とその意義について理解し、応用的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。
	後期	日本における道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し、道徳教育に関する基礎的知識を修得する。また、学習指導要領を踏まえた指導案を作成し、道徳教育に関する理解を深める。また、子ども理解と自治活動の指導を中心にして特別活動の視点も学ぶ。 さらに、教育ファシリテーションの理論的背景や現代的な諸論点に関する知識を学ぶとともに、学習者中心の授業改善のプロセスを構想する授業過程と教育評価に関する知識・技能を身に付ける。 これまでの科目を修得した上で教育実習で附属学校や協力校での実習を行い、学校現場における経験から、成果と課題を再認識する。
4年次	前期	教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。
	後期	4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。

様式第7号ウ（教諭）

<学校教育教員養成課程>（認定課程：小一種免）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職へのとびら	国語（書写及びICTの活用を含む。）	ダイバーシティと教育	日本国憲法	
		発達と学習の心理学	生活（ICTの活用を含む。）	現代社会と子どもの権利	スポーツ実技a	
				多様な子どもとインクルーシブ教育	情報活用基礎Ⅰ	
				教職のための省察入門	情報活用基礎Ⅱ	
	後期	教育総論	算数（ICTの活用を含む。）	特別支援教育の実践	スポーツ実技b	
		特別支援教育の基礎	体育（ICTの活用を含む。）	外国人の子どもの理解と支援		
			理科（ICTの活用を含む。）			
2年次	前期	学校の役割と経営	社会（ICTの活用を含む。）	人権教育の基礎	外国語コミュニケーション	
		学校安全	音楽（ICTの活用を含む。）	発達障害教育論		
		ICT活用の理論と方法		教科横断と探究学習Ⅰ		
		生徒指導論		教育データの活用Ⅰ		
		生活科教育法				
		初等家庭科教育法				
	後期	教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）	図画工作（ICTの活用を含む。）	ファシリテーターとしての教員Ⅰ		
		教育方法論	家庭（ICTの活用を含む。）	学習者中心の授業デザインⅠ		
		進路指導論				
		算数科教育法				
		図画工作科教育法				
		体育科教育法				
	通年			学校インターンシップ体験		
				教職インターンシップⅠ		
				教職専門性と省察		

3年次	前期	総合的な学習の時間の指導法		小・中一貫教育概論		
		教育相談の理論と方法		教科横断と探究学習Ⅱ		
		初等国語科教育法(書写を含む。)		教育データの活用Ⅱ		
		初等社会科教育法				
		初等理科教育法				
		初等音楽科教育法				
	後期	道徳教育論	英語(ICTの活用を含む。)	人権教育の実践		
		特別活動論		ファシリテーターとしての教員Ⅱ		
		初等英語科教育法		学習者中心の授業デザインⅡ		
		教育実習				
	通年			教職インターンシップⅡ		
				特別支援学校インターンシップ		
4年次	前期					
	後期	教職実践演習				
	通年			連携協働活動演習		

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程(夜間コース)＞(認定課程:小一種免)

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職の意義や教員の役割、職務内容について学び、教職への動機づけを図り、さらに学校教育における今日的な課題について関心を深める。さらに、現代社会におけるダイバーシティの基本理念や子どもの諸権利、インクルーシブ教育の理念についての理解を深める。 小学校教諭として必要となる各教科に関する基礎的知識・技能を修得する。また、自身の被教育経験を相対化し、多様な学校教育の可能性に照らして個別具体的な学校現場の経験から学び続けるための素地を形成する。
	後期	外国にルーツのある子どもの多様性の理解及びその支援等の理解を深める。 小学校教諭として必要となる各教科に関する基礎的知識・技能を修得する。
2年次	前期	教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解する。また、教材開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身につける。さらに、教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する基礎的な知識・技能やデータの収集と理解の基礎となる考え方および基礎的なデータ収集・分析の手法を修得する。 小学校教諭として必要となる各教科に関する基礎的知識・技能を修得する。
	後期	特別支援教育の理念、障がい観・人間観について理解を深める。また、小学校教諭として必要となる各教科に関する基礎的知識・技能を修得する。 教育ファシリテーションの理論的な背景、基礎に関する知識を学ぶとともに、現代までの教育から学習者中心の授業改善プロセスを構想する授業づくりの原理を理解する。さらに、生涯にわたる教師の発達と学習のあり方、および教師の学びを支える教員研修の意義及び制度上の位置づけを理解し、教師としての学びを実践する。 学校インターンシップによる現場観察・実習を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。
3年次	前期	子どもの発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸問題、障がいのある児童・生徒の理解と支援、教育測定と評価などについて理解する。 人権侵害や差別の現状、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。 今日における生徒指導上の諸問題に関する理論的・実践的な認識を身につけるとともに、教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談(カウンセリングを含む)などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。 教材開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身につける。
	後期	今日における進路指導上の諸問題に関する理論的・実践的な認識を身につける。さらに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 教材開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身につける。
4年次	前期	学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、今日の授業づくりの方法と技術を身につける。同時に子ども理解と自治活動の指導を中心にして特別活動の視点も学ぶ。さらに、小学校科教諭に必要な学校安全や危機管理についての基本的事項を理解するとともに、総合的な学習の時間の意義や歴史、指導法、今日の授業づくりの方法と技術を身に付ける。 また、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。
	後期	日本における道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し、道徳教育に関する基礎的知識を修得する。また、学習指導要領を踏まえた指導案を作成し、道徳教育に関する理解を深める。同時に子ども理解と自治活動の指導を中心にして特別活動の視点も学ぶ。 また、これまでの科目を修得した上で「教育実習Ⅰ」で附属学校での実習を行い、学校現場における経験から、成果と課題を再認識する。
5年次	前期	これまでの科目を修得した上で「教育実習Ⅱ」で協力校での実習を行い、学校現場における経験を重ね、成果と課題を再認識する。
	後期	5年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程（夜間コース）＞（認定課程：小一種免）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
1年次	前期	教職へのとびら	社会a(ICTの活用を含む。)	ダイバーシティと教育	日本国憲法	
			社会b(ICTの活用を含む。)	現代社会と子どもの権利	スポーツ実技Ⅰ	
			算数a(ICTの活用を含む。)	多様な子どもとインクルーシブ教育	情報活用基礎Ⅰ	
			算数b(ICTの活用を含む。)	教職のための省察入門	情報活用基礎Ⅱ	
	後期		国語a(書写及びICTの活用を含む。)	外国人の子どもの理解と支援	スポーツ実技Ⅱ	
			国語b(書写及びICTの活用を含む。)			
			理科a(ICTの活用を含む。)			
			理科b(ICTの活用を含む。)			
2年次	前期	教育総論	生活a(ICTの活用を含む。)	教科横断と探究学習Ⅰ	英語Ⅱ(外国語コミュニケーション)	
		生活科教育法	生活b(ICTの活用を含む。)	教育データの活用Ⅰ		
			図画工作a(ICTの活用を含む。)			
			図画工作b(ICTの活用を含む。)			
			体育a(ICTの活用を含む。)			
			体育b(ICTの活用を含む。)			
	後期	特別支援教育の基礎	音楽a(ICTの活用を含む。)	特別支援教育の実践		
			音楽b(ICTの活用を含む。)	ファシリテーターとしての教員Ⅰ		
			家庭a(ICTの活用を含む。)	学習者中心の授業デザインⅠ		
			家庭b(ICTの活用を含む。)			
	通年			学校インターンシップ体験		
				教職専門性と省察		
	前期	発達と学習の心理学a		人権教育の基礎		
		学校の役割と経営		発達障害教育論		
		生徒指導論				
		教育相談の理論と方法				
		初等国語科教育法(書写を含む。)				

3年次		初等理科教育法				
	後期	発達と学習の心理学b	英語a(ICTの活用を含む。)	保育と子ども		
		進路指導論	英語b(ICTの活用を含む。)	学習者中心の授業デザインⅡ		
		ICT活用の理論と方法				
		初等社会科教育法				
		図画工作科教育法				
		初等英語科教育法				
4年次	前期	学校安全a		人権教育の実践		
		教育課程論(カリキュラム・マネジメントを含む。)				
		道徳教育論a				
		総合的な学習の時間の指導法				
		教育方法論				
		算数科教育法				
		初等家庭科教育法				
	後期	学校安全b				
		道徳教育論b				
		特別活動論				
		初等音楽科教育法				
		体育科教育法				
		教育実習Ⅰ				
5年次	前期	教育実習Ⅱ				
	後期	教職実践演習				

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免（国語））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職の意義や教員の役割、職務内容について学び、教職への動機づけを図る。また、子どもの発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸問題、教育測定と評価などについて理解する。さらに、現代社会におけるダイバーシティの基本理念や子どもの諸権利、インクルーシブ教育の理念についての理解を深める。 中学校国語科教諭に必要な漢文学に関する基礎的知識を修得し、漢文読解の基礎力を養う。また、自身の被教育経験を相対化し、多様な学校教育の可能性に照らして個別具体的な学校現場の経験から学び続けるための素地を形成する。
	後期	教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解する。また、外国にルーツのある子どもの多様性の理解及びその支援等の理解を深める。 中学校国語科教諭に必要な国語学及び国文学に関する基礎的知識を養う。
2年次	前期	人権侵害や差別の現状、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。また、今日における生徒指導上の諸問題に関する理論的・実践的な認識を身につけるとともに、中学校教諭に必要な学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。さらに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する基礎的な知識・技能やデータの収集と理解の基礎となる考え方および基礎的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、中学校国語科教諭に必要な国文学・国語学・書道に関する基礎的知識を修得し、技能や方法を身につける。さらには、学校インターンシップによる現場観察・実習を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。
	後期	学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、今日の授業づくりの方法と技術を身につける。 教育ファンリテーションの理論的な背景、基礎に関する知識を学ぶとともに、現代までの教育から学習者中心の授業改善プロセスを構想する授業づくりの原理を理解する。さらに、生涯にわたる教師の発達と学習のあり方、および教師の学びを支える教員研修の意義及び制度上の位置づけを理解し、教師としての学びを実践する。 教材開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身につける。
3年次	前期	教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。 さらに、教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する発展的な知識・技能を学ぶとともに、多様なデータの特徴とその意義について理解し、応用的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、国文学・国語学・書道すべての分野で作品読解を中心とする実践力を養う。加えて、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。
	後期	子ども理解と自治活動の指導を中心にして特別活動の視点を学ぶ。また、日本における道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し、道徳教育に関する基礎的知識を修得する。さらに、学習指導要領を踏まえた指導案を作成し、道徳教育に関する理解を深める。これまでの科目を修得した上で教育実習で附属学校や協力校での実習を行い、学校現場における経験から、成果と課題を再認識する。さらに、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図る。 また、教育ファンリテーションの理論的な背景や現代的な諸論点に関する知識を学ぶとともに、学習者中心の授業改善のプロセスを構想する授業過程と教育評価に関する知識・技能を身に付ける。
4年次	前期	教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。
	後期	4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。また、中学校国語科教諭としての専門性を備えた卒業研究を行う。

様式第7号ウ（教諭）

<学校教育教員養成課程>（認定課程：中一種免（国語））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職へのとびら	漢文学概論A	ダイバーシティと教育	日本国憲法	
		発達と学習の心理学	漢文学概論B	現代社会と子どもの権利	スポーツ実技a	
				多様な子どもとインクルーシブ教育	情報活用基礎Ⅰ	
				国語科教育入門A	情報活用基礎Ⅱ	
				国語科教育入門B		
				教職のための省察入門		
	後期	教育総論	国語学概論A	特別支援教育の実践	スポーツ実技b	
		特別支援教育の基礎	国語学概論B	外国人の子どもの理解と支援		
			国文学概論A			
			国文学概論B			
2年次	前期	学校の役割と経営	国語学特論A	人権教育の基礎	外国語コミュニケーション	
		学校安全	国語学特論B	発達障害教育論		
		ICT活用の理論と方法	国文学特論A	教科横断と探究学習Ⅰ		
		生徒指導論	国文学特論B	教育データの活用Ⅰ		
		中等国語科教育法Ⅰ	書道概論Ⅰ（書写を中心とする。）	国語科資質・能力開発論Ⅰ		
	後期	教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）	書道概論Ⅱ（書写を中心とする。）	ファシリテーターとしての教員Ⅰ		
		教育方法論		学習者中心の授業デザインⅠ		
		進路指導論		国語科資質・能力開発論Ⅱ		
		中等国語科教育法Ⅱ				
	通年			教職インターンシップⅠ		
				教職専門性と省察		

3年次	前期	総合的な学習の時間の指導法	国語学講義ⅠA	小・中一貫教育概論		
		教育相談の理論と方法	国語学講義ⅠB	教科横断と探究学習Ⅱ		
		中等国語科教育法Ⅲ	国文学講義ⅠA	教育データの活用Ⅱ		
			国文学講義ⅠB	国語科授業実践論		
				国語教育実践演習Ⅰ		
	後期	道德教育論	国語学講義Ⅱ	人権教育の実践		
		特別活動論	国文学講義Ⅱ	ファシリテーターとしての教員Ⅱ		
		中等国語科教育法Ⅳ		学習者中心の授業デザインⅡ		
		教育実習		小中連携国語科学習開発論		
				国語教育実践演習Ⅱ		
	通年			教職インターンシップⅡ		
				特別支援学校インターンシップ		
4年次	前期		国語学研究Ⅰ	国語教育学研究Ⅰ		
			国文学研究Ⅰ	国語教育ゼミナールⅠ		
	後期	教職実践演習	国語学研究Ⅱ	国語教育学研究Ⅱ		
			国文学研究Ⅱ	国語教育ゼミナールⅡ		
	通年			連携協働活動演習		

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免（社会））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職の意義や教員の役割、職務内容について学び、教職への動機づけを図る。また、子どもの発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸問題、教育測定と評価などについて理解する。さらに、現代社会におけるダイバーシティの基本理念や子どもの諸権利、インクルーシブ教育の理念についての理解を深める。 中学校社会科教諭に必要な哲学や経済学に関する基礎的知識を修得する。また、自身の被教育経験を相対化し、多様な学校教育の可能性に照らして個別具体的な学校現場の経験から学び続けるための素地を形成する。
	後期	教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解する。外国にルーツのある子どもの実態と教育課題、及びその支援等の理解を深める。 また、中学校社会科教諭に必要な外国史・地理学・社会学に関する基礎的知識を修得する。
2年次	前期	人権侵害や差別の現状、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。また、今日における生徒指導上の諸問題に関する理論的・実践的な認識を身につけるとともに、中学校教諭に必要な学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。 さらに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する基礎的な知識・技能やデータの収集と理解の基礎となる考え方および基礎的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、中学校社会科教諭に必要な日本史・社会学・倫理学に関する基礎的知識を修得し、技能や方法を身につける。さらには、学校インターンシップによる現場観察・実習を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。
	後期	学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、今日の授業づくりの方法と技術を身につける。同時に子ども理解と自治活動の指導を中心にして特別活動の視点も学ぶ。 教育ファシリテーションの理論的背景、基礎に関する知識を学ぶとともに、現代までの教育から学習者中心の授業改善プロセスを構想する授業づくりの原理を理解する。さらに、生涯にわたる教師の発達と学習のあり方、および教師の学びを支える教員研修の意義及び制度上の位置づけを理解し、教師としての学びを実践する。また、法律学や政治学に関する基本的知識を修得する。 教材開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身につける。
3年次	前期	教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。 さらに、教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する発展的な知識・技能を学ぶとともに、多様なデータの特徴とその意義について理解し、応用的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、日本史・外国史・地理学の分野の専門性を高める。加えて、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。
	後期	子ども理解と自治活動の指導を中心にして特別活動の視点を学ぶ。また、日本における道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し、道徳教育に関する基礎的知識を修得する。さらに、学習指導要領を踏まえた指導案を作成し、道徳教育に関する理解を深める。 これまでの科目を修得した上で教育実習で附属学校や協力校での実習を行い、学校現場における経験から、成果と課題を再認識する。さらに、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図る。 また、教育ファシリテーションの理論的背景や現代的な諸論点に関する知識を学ぶとともに、学習者中心の授業改善のプロセスを構想する授業過程と教育評価に関する知識・技能を身に付ける。
4年次	前期	教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。
	後期	4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。また、中学校社会科教諭としての専門性を備えた卒業研究を行う。

様式第7号ウ（教諭）

<学校教育教員養成課程>（認定課程：中一種免（社会））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職へのとびら	経済学	ダイバーシティと教育	日本国憲法	
		発達と学習の心理学	哲学の基礎	現代社会と子どもの権利	スポーツ実技a	
				多様な子どもとインクルーシブ教育	情報活用基礎Ⅰ	
				教職のための省察入門	情報活用基礎Ⅱ	
	後期	教育総論	世界史概説	特別支援教育の実践	スポーツ実技b	
		特別支援教育の基礎	地誌概論	外国人の子どもの理解と支援		
			自然地理学の基礎			
			人文地理学の基礎			
			社会学			
2年次	前期	学校の役割と経営	日本史概説	人権教育の基礎	外国語コミュニケーション	
		学校安全	社会調査	発達障害教育論		
		ICT活用の理論と方法	西洋思想概論	教科横断と探究学習Ⅰ		
		生徒指導論	倫理学諸問題	教育データの活用Ⅰ		
		中等社会科（地歴）教育法Ⅰ		社会科教育学基礎論		
	後期	教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）	歴史探究の基礎	ファシリテーターとしての教員Ⅰ		
		教育方法論	地理学概論	学習者中心の授業デザインⅠ		
		進路指導論	法律学			
		中等社会科（公民）教育法Ⅱ	政治学			
			倫理学の基礎			
	通年			教職インターンシップⅠ		
				教職専門性と省察		

3年次	前期	総合的な学習の時間の指導法	日本史特講Ⅰ	小・中一貫教育概論		
		教育相談の理論と方法	東洋史特講	教科横断と探究学習Ⅱ		
		中等社会科(地歴)教育法Ⅲ	自然地理学特講	教育データの活用Ⅱ		
			哲学諸問題	社会科基礎演習Ⅰ		
	後期	道徳教育論	日本史特講Ⅱ	人権教育の実践		
		特別活動論	西洋史特講	ファシリテーターとしての教員Ⅱ		
		中等社会科(公民)教育法Ⅳ	人文地理学特講	学習者中心の授業デザインⅡ		
		教育実習	地理探究の基礎	公民科探究		
			社会学特講	社会科基礎演習Ⅱ		
			人間と宗教			
	通年			教職インターンシップⅡ		
				特別支援学校インターンシップ		
4年次	前期			社会科発展演習Ⅰ		
	後期	教職実践演習		社会科発展演習Ⅱ		
	通年			連携協働活動演習		

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免（数学））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職の意義や教員の役割、職務内容について学び、教職への動機づけを図る。また、子どもの発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸問題、教育測定と評価などについて理解する。さらに、現代社会におけるダイバーシティの基本理念や子どもの諸権利、インクルーシブ教育の理念についての理解を深める。 中学校数学科教諭に必要な代数学や解析学に関する基礎的知識を修得する。また、自身の被教育経験を相対化し、多様な学校教育の可能性に照らして個別具体的な学校現場の経験から学び続けるための素地を形成する。
	後期	教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解する。外国にルーツのある子どもの実態と教育課題、及びその支援等の理解を深める。また、中学校数学科教諭に必要な代数学や解析学に関する基礎的知識を修得する。
2年次	前期	人権侵害や差別の現状、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。また、今日における生徒指導上の諸問題に関する理論的・実践的な認識を身につけるとともに、中学校教諭に必要な学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。さらに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身につける。 教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する基礎的な知識・技能やデータの収集と理解の基礎となる考え方および基礎的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、中学校数学科教諭に必要な幾何学や統計学に関する基礎的知識を修得し、技能や方法を身につける。さらには、学校インターンシップによる現場観察・実習を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。
	後期	学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、今日の授業づくりの方法と技術を身につける。同時に子ども理解と自治活動の指導を中心にして特別活動の視点も学ぶ。 教育ファシリテーションの理論的な背景、基礎に関する知識を学ぶとともに、現代までの教育から学習者中心の授業改善プロセスを構想する授業づくりの原理を理解する。さらに、生涯にわたる教師の発達と学習のあり方、および教師の学びを支える教員研修の意義及び制度上の位置づけを理解し、教師としての学びを実践する。 教材開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身につける。
3年次	前期	教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。 さらに、教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する発展的な知識・技能を学ぶとともに、多様なデータの特徴とその意義について理解し、応用的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、代数学・幾何学・解析学・確率論の各分野の専門性を高める。加えて、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。
	後期	子ども理解と自治活動の指導を中心にして特別活動の視点を学ぶ。また、日本における道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し、道徳教育に関する基礎的知識を修得する。さらに、学習指導要領を踏まえた指導案を作成し、道徳教育に関する理解を深める。これまでの科目を修得した上で教育実習で附属学校や協力校での実習を行い、学校現場における経験から、成果と課題を再認識する。さらに、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図る。 また、教育ファシリテーションの理論的な背景や現代的な諸論点に関する知識を学ぶとともに、学習者中心の授業改善のプロセスを構想する授業過程と教育評価に関する知識・技能を身につける。
4年次	前期	教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。
	後期	4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。また、中学校数学科教諭としての専門性を備えた卒業研究を行う。

様式第7号ウ（教諭）

<学校教育教員養成課程>（認定課程：中一種免（数学））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職へのとびら	線形代数学a	ダイバーシティと教育	日本国憲法	
		発達と学習の心理学	微分積分学a	現代社会と子どもの権利	スポーツ実技a	
				多様な子どもとインクルーシブ教育	情報活用基礎Ⅰ	
				教職のための省察入門	情報活用基礎Ⅱ	
	後期	教育総論	線形代数学b	特別支援教育の実践	スポーツ実技b	
		特別支援教育の基礎	微分積分学b	外国人の子どもの理解と支援		
2年次	前期	学校の役割と経営	代数学a	人権教育の基礎	外国語コミュニケーション	
		学校安全	距離空間	発達障害教育論		
		ICT活用の理論と方法	解析学a	教科横断と探究学習Ⅰ		
		生徒指導論	確率統計概論	教育データの活用Ⅰ		
		数学科教育法Ⅰ				
	後期	教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）	代数学b	ファシリテーターとしての教員Ⅰ		
		教育方法論	幾何学	学習者中心の授業デザインⅠ		
		進路指導論	解析学b			
		数学科教育法Ⅱ	コンピュータ			
	通年			教職インターンシップⅠ		
				教職専門性と省察		
3年次	前期	総合的な学習の時間の指導法	代数学c	小・中一貫教育概論		
		教育相談の理論と方法	代数学Ⅰ	教科横断と探究学習Ⅱ		
		数学科教育法Ⅲ	幾何学Ⅰ	教育データの活用Ⅱ		
			解析学Ⅰ	算数・数学教育論		
			応用数理Ⅰ			
			確率論			
		道徳教育論	代数学Ⅱ	人権教育の実践		

	後期	特別活動論	幾何学Ⅱ	ファシリテーターとしての教員Ⅱ		
		数学科教育法Ⅳ	解析学c	学習者中心の授業デザインⅡ		
		教育実習	解析学Ⅱ	数理探求		
			応用数理Ⅱ			
	通年			教職インターンシップⅡ		
				特別支援学校インターンシップ		
4年次	前期			数学演習a		
	後期	教職実践演習		数学演習b		
	通年			連携協働活動演習		

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免（理科））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職の意義や教員の役割、職務内容について学び、教職への動機づけを図る。また、子どもの発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸問題、教育測定と評価などについて理解する。さらに、現代社会におけるダイバーシティの基本理念や子どもの諸権利、インクルーシブ教育の理念についての理解を深める。 中学校理科教諭に必要な物理学や化学に関する基礎的知識を修得する。また、自身の被教育経験を相対化し、多様な学校教育の可能性に照らして個別具体的な学校現場の経験から学び続けるための素地を形成する。
	後期	教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解する。外国にルーツのある子どもの実態と教育課題、及びその支援等の理解を深める。 また、中学校理科教諭に必要な生物学や地学に関する基礎的知識を修得する。
2年次	前期	人権侵害や差別の現状、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。また、今日における生徒指導上の諸問題に関する理論的・実践的な認識を身につけるとともに、中学校教諭に必要な学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。さらに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する基礎的な知識・技能やデータの収集と理解の基礎となる考え方および基礎的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、中学校理科教諭に必要な物理学や化学の基礎力を養う。さらには、学校インターンシップによる現場観察・実習を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。
	後期	学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、今日の授業づくりの方法と技術を身につける。同時に子ども理解と自治活動の指導を中心にして特別活動の視点も学ぶ。 教育ファシリテーションの理論的背景、基礎に関する知識を学ぶとともに、現代までの教育から学習者中心の授業改善プロセスを構想する授業づくりの原理を理解する。さらに、生涯にわたる教師の発達と学習のあり方、および教師の学びを支える教員研修の意義及び制度上の位置づけを理解し、教師としての学びを実践する。 教材開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身につける。
3年次	前期	教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。 さらに、教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する発展的な知識・技能を学ぶとともに、多様なデータの特徴とその意義について理解し、応用的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、物理学・化学・生物学・地学の各分野の専門性を高める。加えて、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。
	後期	子ども理解と自治活動の指導を中心にして特別活動の視点を学ぶ。また、日本における道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し、道徳教育に関する基礎的知識を修得する。さらに、学習指導要領を踏まえた指導案を作成し、道徳教育に関する理解を深める。これまでの科目を修得した上で教育実習で附属学校や協力校での実習を行い、学校現場における経験から、成果と課題を再認識する。さらに、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図る。 また、教育ファシリテーションの理論的背景や現代的な諸論点に関する知識を学ぶとともに、学習者中心の授業改善のプロセスを構想する授業過程と教育評価に関する知識・技能を身に付ける。
4年次	前期	教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。
	後期	4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。また、中学校理科教諭としての専門性を備えた卒業研究を行う。

様式第7号ウ（教諭）

<学校教育教員養成課程>（認定課程：中一種免（理科））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職へのとびら	物理学ⅠA	ダイバーシティと教育	日本国憲法	
		発達と学習の心理学	物理学ⅠB	現代社会と子どもの権利	スポーツ実技a	
			化学ⅠA	多様な子どもとインクルーシブ教育	情報活用基礎Ⅰ	
			化学ⅠB	教職のための省察入門	情報活用基礎Ⅱ	
			科学のための数学			
	後期	教育総論	生物学ⅠA	特別支援教育の実践	スポーツ実技b	
		特別支援教育の基礎	生物学ⅠB	外国人の子どもの理解と支援		
			地学ⅠA			
			地学ⅠB			
2年次	前期	学校の役割と経営	物理学ⅡA	人権教育の基礎	外国語コミュニケーション	
		学校安全	物理学ⅡB	発達障害教育論		
		ICT活用の理論と方法	化学ⅡA	教科横断と探究学習Ⅰ		
		生徒指導論	化学ⅡB	教育データの活用Ⅰ		
		中等理科教育法Ⅰ	電磁気学			
			無機化学入門			
			物理化学			
			動物科学			
			植物科学			
			気象学			
			天文学			
			化学実験Ⅰ			
			生物学実験Ⅰ			

	後期	教育課程論(カリキュラム・マネジメントを含む。)	生物学ⅡA	ファシリテーターとしての教員Ⅰ		
		教育方法論	生物学ⅡB	学習者中心の授業デザインⅠ		
		進路指導論	地学ⅡA			
		中等理科教育法Ⅱ	地学ⅡB			
			力学			
			物理学実験Ⅰ			
			地学実験Ⅰ			
			地球学			
	通年			教職インターンシップⅠ		
				教職専門性と省察		
3年次	前期	総合的な学習の時間の指導法	化学Ⅲ	小・中一貫教育概論		
		教育相談の理論と方法	生物学Ⅲ	教科横断と探究学習Ⅱ		
		中等理科教育法Ⅲ	地学Ⅲ	教育データの活用Ⅱ		
			熱力学			
			物理学実験Ⅱ			
			生命科学			
			生物学実験Ⅱ			
	後期	道德教育論	物理学Ⅲ	人権教育の実践		
		特別活動論	反応有機化学	ファシリテーターとしての教員Ⅱ		
		中等理科教育法Ⅳ	化学実験Ⅱ	学習者中心の授業デザインⅡ		
		教育実習				
	通年			教職インターンシップⅡ		
				特別支援学校インターンシップ		
	集中		地学野外実習			
4年次	前期					
	後期	教職実践演習				
	通年			連携協働活動演習		

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免（音楽））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職の意義や教員の役割、職務内容について学び、教職への動機づけを図る。また、子どもの発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸問題、教育測定と評価などについて理解する。さらに、現代社会におけるダイバーシティの基本理念や子どもの諸権利、インクルーシブ教育の理念についての理解を深める。 中学校音楽科教諭に必要な音楽理論・作曲法・編曲法に関する基礎的知識を修得し、ソルフェージュ能力を身につける。また、自身の被教育経験を相対化し、多様な学校教育の可能性に照らして個別具体的な学校現場の経験から学び続けるための素地を形成する。
	後期	教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解する。外国にルーツのある子どもの実態と教育課題、及びその支援等の理解を深める。 また、中学校音楽科教諭に必要な声楽演奏の基礎技術を身につける。
2年次	前期	人権侵害や差別の現状、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。また、今日における生徒指導上の諸問題に関する理論的・実践的な認識を身につけるとともに、中学校教諭に必要な学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。さらに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する基礎的な知識・技能やデータの収集と理解の基礎となる考え方および基礎的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、伴奏・合奏等アンサンブルの技術を身につけ、幅広い演奏の技術を修得する。さらに、学校インターンシップによる現場観察・実習を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。
	後期	学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、今日の授業づくりの方法と技術を身につける。同時に子ども理解と自治活動の指導を中心にして特別活動の視点も学ぶ。 教育ファシリテーションの理論的背景、基礎に関する知識を学ぶとともに、現代までの教育から学習者中心の授業改善プロセスを構想する授業づくりの原理を理解する。さらに、生涯にわたる教師の発達と学習のあり方、および教師の学びを支える教員研修の意義及び制度上の位置づけを理解し、教師としての学びを実践する。 教材開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身につける。
3年次	前期	教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。 さらに、教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する発展的な知識・技能を学ぶとともに、多様なデータの特徴とその意義について理解し、応用的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、教科指導に必要な演奏・指導の技術を磨き、教員としての資質を身につける。加えて、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。
	後期	子ども理解と自治活動の指導を中心にして特別活動の視点を学ぶ。また、日本における道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し、道徳教育に関する基礎的知識を修得する。さらに、学習指導要領を踏まえた指導案を作成し、道徳教育に関する理解を深める。 これまでの科目を修得した上で教育実習で附属学校や協力校での実習を行い、学校現場における経験から、成果と課題を再認識する。さらに、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図る。 また、教育ファシリテーションの理論的背景や現代的な諸論点に関する知識を学ぶとともに、学習者中心の授業改善のプロセスを構想する授業過程と教育評価に関する知識・技能を身に付ける。
4年次	前期	教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。
	後期	4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。また、中学校音楽科教諭としての専門性を備えた卒業研究を行う。

様式第7号ウ（教諭）

<学校教育教員養成課程>（認定課程：中一種免（音楽））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職へのとびら	ソルフェージュ	ダイバーシティと教育	日本国憲法	
		発達と学習の心理学	ピアノ伴奏法	現代社会と子どもの権利	スポーツ実技a	
			創作表現Ⅰ	多様な子どもとインクルーシブ教育	情報活用基礎Ⅰ	
				教職のための省察入門	情報活用基礎Ⅱ	
	後期	教育総論	演奏基礎（こえ）	特別支援教育の実践	スポーツ実技b	
		特別支援教育の基礎	音楽学Ⅰ	外国人の子どもの理解と支援		
	通年		管弦（雅楽）Ⅰ			
2年次	前期	学校の役割と経営	合唱指導法（混声）Ⅰ	人権教育の基礎	外国語コミュニケーション	
		学校安全	演奏表現（こえ）Ⅰ	発達障害教育論		
		ICT活用の理論と方法	演奏表現（こえ）Ⅱ	教科横断と探究学習Ⅰ		
		生徒指導論	演奏基礎（ピアノ）	教育データの活用Ⅰ		
		中等音楽科教育法Ⅰ	演奏表現（ピアノ）Ⅰ	音楽教育学		
			演奏表現（ピアノ）Ⅱ			
			合奏Ⅰ			
			アンサンブル指導法			
	後期	教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）	合唱指導法（混声）Ⅱ	ファシリテーターとしての教員Ⅰ		
		教育方法論	演奏表現（こえ）Ⅲ	学習者中心の授業デザインⅠ		
		進路指導論	演奏表現（こえ）Ⅳ			
		中等音楽科教育法Ⅱ	演奏表現（ピアノ）Ⅲ			
			演奏表現（ピアノ）Ⅳ			
			合奏Ⅱ			
			創作表現Ⅱ			

	通年			教職インターンシップⅠ		
				教職専門性と省察		
3年次	前期	総合的な学習の時間の指導法	合唱指導法(混声)Ⅲ	小・中一貫教育概論		
		教育相談の理論と方法	同声合唱Ⅰ	教科横断と探究学習Ⅱ		
		中等音楽科教育法Ⅲ	和楽器アンサンブルⅠ	教育データの活用Ⅱ		
			合奏Ⅲ			
			音楽学Ⅱ			
			創作表現Ⅲ			
			スコアリーディング			
	後期	道徳教育論	舞台表現演習(伝統音楽を含む。)	人権教育の実践		
		特別活動論	合唱指導法(混声)Ⅳ	ファシリテーターとしての教員Ⅱ		
		中等音楽科教育法Ⅳ	同声合唱Ⅱ	学習者中心の授業デザインⅡ		
		教育実習	合奏Ⅳ			
			和楽器アンサンブルⅡ			
			創作表現Ⅳ			
	通年			教職インターンシップⅡ		
				特別支援学校インターンシップ		
4年次	前期		合唱指導法(混声)Ⅴ	音楽教育実践演習		
			同声合唱Ⅲ	音楽教育学研究各論演習Ⅰ		
			合奏Ⅴ			
			和楽器アンサンブルⅢ			
	後期	教職実践演習	合唱指導法(混声)Ⅵ	音楽教育学研究各論演習Ⅱ		
			同声合唱Ⅳ			
			合奏Ⅵ			
			和楽器アンサンブルⅣ			
	通年			連携協働活動演習		

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免（美術））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職の意義や教員の役割、職務内容について学び、教職への動機づけを図る。また、子どもの発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸問題、教育測定と評価などについて理解する。さらに、現代社会におけるダイバーシティの基本理念や子どもの諸権利、インクルーシブ教育の理念についての理解を深める。 中学校美術科教諭に必要な絵画・彫刻・デザイン・美術史に関する基礎的知識を修得する。また、自身の被教育経験を相対化し、多様な学校教育の可能性に照らして個別具体的な学校現場の経験から学び続けるための素地を形成する。
	後期	教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解する。外国にルーツのある子どもの実態と教育課題、及びその支援等の理解を深める。 また、中学校美術科教諭に必要な絵画・デザインに関する知識の向上を図る。
2年次	前期	人権侵害や差別の現状、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。また、今日における生徒指導上の諸問題に関する理論的・実践的な認識を身につけるとともに、中学校教諭に必要な学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。さらに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する基礎的な知識・技能やデータの収集と理解の基礎となる考え方および基礎的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、美術科教諭に必要な美術理論に関する基礎的知識を修得する。さらには、学校インターシップによる現場観察・実習を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。
	後期	学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、今日の授業づくりの方法と技術を身につける。同時に子ども理解と自治活動の指導を中心にして特別活動の視点も学ぶ。 教育ファシリテーションの理論的な背景、基礎に関する知識を学ぶとともに、現代までの教育から学習者中心の授業改善プロセスを構想する授業づくりの原理を理解する。さらに、生涯にわたる教師の発達と学習のあり方、および教師の学びを支える教員研修の意義及び制度上の位置づけを理解し、教師としての学びを実践する。 教材開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身につける。
3年次	前期	教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。 さらに、教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する発展的な知識・技能を学ぶとともに、多様なデータの特徴とその意義について理解し、応用的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、これまでに修得した美術に関する知識をさらに深める。加えて、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。
	後期	子ども理解と自治活動の指導を中心にして特別活動の視点を学ぶ。また、日本における道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し、道徳教育に関する基礎的知識を修得する。さらに、学習指導要領を踏まえた指導案を作成し、道徳教育に関する理解を深める。 これまでの科目を修得した上で教育実習で附属学校や協力校での実習を行い、学校現場における経験から、成果と課題を再認識する。さらに、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図る。 また、教育ファシリテーションの理論的な背景や現代的な諸論点に関する知識を学ぶとともに、学習者中心の授業改善のプロセスを構想する授業過程と教育評価に関する知識・技能を身に付ける。
4年次	前期	教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。
	後期	4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。また、中学校美術科教諭としての専門性を備えた卒業研究を行う。

様式第7号ウ（教諭）

<学校教育教員養成課程>（認定課程：中一種免（美術））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職へのとびら	絵画・彫刻表現基礎A	ダイバーシティと教育	日本国憲法	
		発達と学習の心理学	絵画・彫刻表現基礎B	現代社会と子どもの権利	スポーツ実技a	
			美術表現の基礎	多様な子どもとインクルーシブ教育	情報活用基礎Ⅰ	
			デザイン・工芸表現基礎B	デッサン論	情報活用基礎Ⅱ	
			日本美術史概論	教職のための省察入門		
	後期	教育総論	デザイン・工芸表現基礎A	特別支援教育の実践	スポーツ実技b	
		特別支援教育の基礎	絵画基礎演習	外国人の子どもの理解と支援		
	通年		図法			
2年次	前期	学校の役割と経営	デザイン・工芸表現研究A	人権教育の基礎	外国語コミュニケーション	
		学校安全	デザイン・工芸表現研究B	発達障害教育論		
		ICT活用の理論と方法	材料研究B	教科横断と探究学習Ⅰ		
		生徒指導論	美術理論Ⅰ	教育データの活用Ⅰ		
		美術科教育法Ⅰ	材料研究A			
	後期	教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）	絵画・彫刻表現研究A	ファシリテーターとしての教員Ⅰ		
		教育方法論	絵画・彫刻表現研究B	学習者中心の授業デザインⅠ		
		進路指導論	絵画・彫刻表現発展研究A			
		美術科教育法Ⅱ	絵画・彫刻表現発展研究B			
			デザイン・工芸表現発展研究A			
			デザイン・工芸表現発展研究B			
			日本東洋美術史			
	通年			教職インターンシップⅠ		
				教職専門性と省察		

3年次	前期	総合的な学習の時間の指導法	美術理論Ⅱ	小・中一貫教育概論		
		教育相談の理論と方法		教科横断と探究学習Ⅱ		
		美術科教育法Ⅲ		教育データの活用Ⅱ		
				美術科応用研究Ⅰ		
	後期	道徳教育論	彫刻演習	人権教育の実践		
		特別活動論	コミュニティとアート	ファシリテーターとしての教員Ⅱ		
		美術科教育法Ⅳ	デザイン演習	学習者中心の授業デザインⅡ		
		教育実習	工芸制作Ⅰ	美術科応用研究Ⅱ		
			工芸制作Ⅱ			
			美術史演習Ⅰ			
	通年		デザイン・工芸史	教職インターンシップⅡ		
			美術史演習Ⅱ	特別支援学校インターンシップ		
4年次	前期			美術科発展研究Ⅰ		
	後期	教職実践演習		美術科発展研究Ⅱ		
	通年			連携協働活動演習		

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免（保健体育））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職の意義や教員の役割、職務内容について学び、教職への動機づけを図る。また、子どもの発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸問題、教育測定と評価などについて理解する。さらに、現代社会におけるダイバーシティの基本理念や子どもの諸権利、インクルーシブ教育の理念についての理解を深める。 中学校保健体育科教諭に必要な身体運動文化の基本的な挙措を学ぶとともに、運動学や衛生学の基礎理論を理解する。また、自身の被教育経験を相対化し、多様な学校教育の可能性に照らして個別具体的な学校現場の経験から学び続けるための素地を形成する。
	後期	教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解する。外国にルーツのある子どもの実態と教育課題、及びその支援等の理解を深める。 また、中学校保健体育科教諭に必要な体育原理の基礎理論を理解する。
2年次	前期	人権侵害や差別の現状、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。また、今日における生徒指導上の諸問題に関する理論的・実践的な認識を身につけるとともに、中学校教諭に必要な学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。さらに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身につける。 教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する基礎的な知識・技能やデータの収集と理解の基礎となる考え方および基礎的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、保健体育科教諭に必要な各競技に係る技能や指導方法などを身につける。さらには、学校インターンシップによる現場観察・実習を通じて、教職実践に向けた基礎的な知識・技能を修得する。
	後期	学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、今日の授業づくりの方法と技術を身につける。同時に子ども理解と自治活動の指導を中心にして特別活動の視点も学ぶ。 教育ファシリテーションの理論的な背景、基礎に関する知識を学ぶとともに、現代までの教育から学習者中心の授業改善プロセスを構想する授業づくりの原理を理解する。さらに、生涯にわたる教師の発達と学習のあり方、および教師の学びを支える教員研修の意義及び制度上の位置づけを理解し、教師としての学びを実践する。 教材開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身につける。
3年次	前期	教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。 さらに、教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する発展的な知識・技能を学ぶとともに、多様なデータの特徴とその意義について理解し、応用的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、スポーツ活動における栄養管理の基礎的事項を修得する。加えて、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。
	後期	子ども理解と自治活動の指導を中心にして特別活動の視点を学ぶ。また、日本における道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し、道徳教育に関する基礎的な知識を修得する。さらに、学習指導要領を踏まえた指導案を作成し、道徳教育に関する理解を深める。 これまでの科目を修得した上で教育実習で附属学校や協力校での実習を行い、学校現場における経験から、成果と課題を再認識する。さらに、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図る。 また、教育ファシリテーションの理論的な背景や現代的な諸論点に関する知識を学ぶとともに、学習者中心の授業改善のプロセスを構想する授業過程と教育評価に関する知識・技能を身につける。
4年次	前期	教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。
	後期	4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。また、中学校保健体育科教諭としての専門性を備えた卒業研究を行う。

様式第7号ウ（教諭）

<学校教育教員養成課程>（認定課程：中一種免（保健体育））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職へのとびら	水泳	ダイバーシティと教育	日本国憲法	
		発達と学習の心理学	体づくり運動	現代社会と子どもの権利	スポーツ実技a	
			運動学Ⅰ	多様な子どもとインクルーシブ教育	情報活用基礎Ⅰ	
			運動生理学Ⅰ	体育指導法演習	情報活用基礎Ⅱ	
			衛生学及び公衆衛生学Ⅰ	教職のための省察入門		
			学校保健Ⅰ			
	後期	教育総論	器械運動	特別支援教育の実践	スポーツ実技b	
		特別支援教育の基礎	スポーツ教育原理	外国人の子どもの理解と支援		
			スポーツ社会学			
			運動学Ⅱ			
			運動生理学Ⅱ			
			衛生学及び公衆衛生学Ⅱ			
			学校保健Ⅱ			
2年次	前期	学校の役割と経営	陸上競技	人権教育の基礎	外国語コミュニケーション	
		学校安全	剣道	発達障害教育論		
		ICT活用の理論と方法	ソフトボール	教科横断と探究学習Ⅰ		
		生徒指導論	スポーツ心理学	教育データの活用Ⅰ		
		保健体育科教育法Ⅰ	スポーツマネジメント論			
			体育史			
	後期	教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）	ダンス	ファシリテーターとしての教員Ⅰ		
		教育方法論	柔道	学習者中心の授業デザインⅠ		
		進路指導論	武道指導論			
		保健体育科教育法Ⅱ				

	通年			教職インターンシップⅠ		
				教職専門性と省察		
3年次	前期	総合的な学習の時間の指導法	バレーボール	小・中一貫教育概論		
		教育相談の理論と方法	バスケットボール	教科横断と探究学習Ⅱ		
		保健体育科教育法Ⅲ	スポーツと栄養	教育データの活用Ⅱ		
		教育実習				
	後期	道徳教育論	サッカー	人権教育の実践		
		特別活動論	学校と地域スポーツ	ファシリテーターとしての教員Ⅱ		
		保健体育科教育法Ⅳ	発育発達学	学習者中心の授業デザインⅡ		
		教育実習				
	通年		スキー実習	教職インターンシップⅡ		
				特別支援学校インターンシップ		
4年次	前期					
	後期	教職実践演習	テニス			
			ハンドボール			
			ラグビー			
	通年			連携協働活動演習		

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免（技術））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職の意義や教員の役割、職務内容について学び、教職への動機づけを図る。また、子どもの発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸問題、教育測定と評価などについて理解する。さらに、現代社会におけるダイバーシティの基本理念や子どもの諸権利、インクルーシブ教育の理念についての理解を深める。 中学校技術教諭に必要な金属加工に関する基礎的知識を修得する。また、自身の被教育経験を相対化し、多様な学校教育の可能性に照らして個別具体的な学校現場の経験から学び続けるための素地を形成する。
	後期	教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解する。外国にルーツのある子どもの実態と教育課題、及びその支援等の理解を深める。また、中学校技術教諭に必要な木材加工・情報とコンピュータに関する基礎的知識を修得する。
2年次	前期	人権侵害や差別の現状、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。また、今日における生徒指導上の諸問題に関する理論的・実践的な認識を身につけるとともに、中学校教諭に必要な学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。さらに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する基礎的な知識・技能やデータの収集と理解の基礎となる考え方および基礎的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、中学校技術科教諭に必要な機械・電気・栽培に関する基礎的知識を修得する。さらに、学校インターンシップによる現場観察・実習を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。
	後期	学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、今日の授業づくりの方法と技術を身につける。同時に子ども理解と自治活動の指導を中心にして特別活動の視点も学ぶ。 教育ファシリテーションの理論的背景、基礎に関する知識を学ぶとともに、現代までの教育から学習者中心の授業改善プロセスを構想する授業づくりの原理を理解する。さらに、生涯にわたる教師の発達と学習のあり方、および教師の学びを支える教員研修の意義及び制度上の位置づけを理解し、教師としての学びを実践する。 教材開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身につける。
3年次	前期	教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。 さらに、教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する発展的な知識・技能を学ぶとともに、多様なデータの特徴とその意義について理解し、応用的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、機械・電気・情報・木材加工・金属加工の各分野の専門性を高める。加えて、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。
	後期	子ども理解と自治活動の指導を中心にして特別活動の視点を学ぶ。また、日本における道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し、道徳教育に関する基礎的知識を修得する。さらに、学習指導要領を踏まえた指導案を作成し、道徳教育に関する理解を深める。これまでの科目を修得した上で教育実習で附属学校や協力校での実習を行い、学校現場における経験から、成果と課題を再認識する。さらに、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図る。 また、教育ファシリテーションの理論的背景や現代的な諸論点に関する知識を学ぶとともに、学習者中心の授業改善のプロセスを構想する授業過程と教育評価に関する知識・技能を身に付ける。
4年次	前期	教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。
	後期	4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。また、中学校技術科教諭としての専門性を備えた卒業研究を行う。

様式第7号ウ（教諭）

<学校教育教員養成課程>（認定課程：中一種免（技術））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職へのとびら	金属加工学Ⅰ（実習を含む。）	ダイバーシティと教育	日本国憲法	
		発達と学習の心理学		現代社会と子どもの権利	スポーツ実技a	
				多様な子どもとインクルーシブ教育	情報活用基礎Ⅰ	
				教職のための省察入門	情報活用基礎Ⅱ	
	後期	教育総論	木材加工学Ⅰ（実習を含む。）	特別支援教育の実践	スポーツ実技b	
		特別支援教育の基礎	情報基礎（実習を含む。）	外国人の子どもの理解と支援		
			プログラミング入門	教職のための省察入門		
				技術科内容論		
2年次	前期	学校の役割と経営	製図Ⅰ	人権教育の基礎	外国語コミュニケーション	
		学校安全	金属加工学実習	発達障害教育論		
		ICT活用の理論と方法	機械工学Ⅰ	教科横断と探究学習Ⅰ		
		生徒指導論	電気工学Ⅰ	教育データの活用Ⅰ		
		技術科教育法Ⅰ	栽培Ⅰ（実習を含む。）			
			情報基礎実習			
			データ処理			
	後期	教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）	製図Ⅱ	ファシリテーターとしての教員Ⅰ		
		教育方法論	木材加工学実習	学習者中心の授業デザインⅠ		
		進路指導論	機械工学Ⅱ			
		技術科教育法Ⅱ	電気工学実験			
			電気工学Ⅱ			
			栽培Ⅱ			
	通年			教職インターンシップⅠ		
				教職専門性と省察		

3年次	前期	総合的な学習の時間の指導法	木材加工学Ⅱ（実習を含む。）	小・中一貫教育概論		
		教育相談の理論と方法	金属加工学Ⅱ（実習を含む。）	教科横断と探究学習Ⅱ		
		技術科教育法Ⅲ	機械工学実験	教育データの活用Ⅱ		
			電子計算機			
	後期	道徳教育論	木材加工学Ⅲ	人権教育の実践		
		特別活動論	金属加工学Ⅲ	ファシリテーターとしての教員Ⅱ		
		技術科教育法Ⅳ	制御・情報工学	学習者中心の授業デザインⅡ		
		教育実習	情報処理			
	通年			教職インターンシップⅡ		
				特別支援学校インターンシップ		
4年次	前期					
	後期	教職実践演習				
	通年			連携協働活動演習		

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免（家庭））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職の意義や教員の役割、職務内容について学び、教職への動機づけを図る。また、子どもの発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸問題、教育測定と評価などについて理解する。さらに、現代社会におけるダイバーシティの基本理念や子どもの諸権利、インクルーシブ教育の理念についての理解を深める。 中学校家庭科教諭に必要な家庭経営学や保育学に関する基礎的知識を修得する。また、自身の被教育経験を相対化し、多様な学校教育の可能性に照らして個別具体的な学校現場の経験から学び続けるための素地を形成する。
	後期	教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解する。外国にルーツのある子どもの実態と教育課題、及びその支援等の理解を深める。また、中学校家庭科教諭に必要な被服学や住居学に関する基礎的知識を修得する。
2年次	前期	人権侵害や差別の現状、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。また、今日における生徒指導上の諸問題に関する理論的・実践的な認識を身につけるとともに、中学校教諭に必要な学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。さらに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する基礎的な知識・技能やデータの収集と理解の基礎となる考え方および基礎的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、中学校家庭科教諭に必要な食物学に関する基礎的知識を修得し、被服学や保育学に関する基礎力を養う。さらには、学校インターンシップによる現場観察・実習を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。
	後期	学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、今日の授業づくりの方法と技術を身につける。同時に子ども理解と自治活動の指導を中心にして特別活動の視点も学ぶ。 教育ファシリテーションの理論的背景、基礎に関する知識を学ぶとともに、現代までの教育から学習者中心の授業改善プロセスを構想する授業づくりの原理を理解する。さらに、生涯にわたる教師の発達と学習のあり方、および教師の学びを支える教員研修の意義及び制度上の位置づけを理解し、教師としての学びを実践する。 教材開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身につける。
3年次	前期	教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談(カウンセリングを含む)などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。 さらに、教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する発展的な知識・技能を学ぶとともに、多様なデータの特徴とその意義について理解し、応用的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、被服学・食物学・保育学の各分野の実習や実験を通じて専門性を高める。加えて、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。
	後期	子ども理解と自治活動の指導を中心にして特別活動の視点を学ぶ。また、日本における道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し、道徳教育に関する基礎的知識を修得する。さらに、学習指導要領を踏まえた指導案を作成し、道徳教育に関する理解を深める。 これまでの科目を修得した上で教育実習で附属学校や協力校での実習を行い、学校現場における経験から、成果と課題を再認識する。さらに、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図る。 また、教育ファシリテーションの理論的背景や現代的な諸論点に関する知識を学ぶとともに、学習者中心の授業改善のプロセスを構想する授業過程と教育評価に関する知識・技能を身に付ける。
4年次	前期	教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。
	後期	4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。また、中学校家庭科教諭としての専門性を備えた卒業研究を行う。

様式第7号ウ（教諭）

<学校教育教員養成課程>（認定課程：中一種免（家庭））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
1年次	前期	教職へのとびら	生活経営学Ⅰ（家庭経済学を含む。）	ダイバーシティと教育	日本国憲法	
		発達と学習の心理学	保育学Ⅰ	現代社会と子どもの権利	スポーツ実技a	
			保育学Ⅱ	多様な子どもとインクルーシブ教育	情報活用基礎Ⅰ	
				教職のための省察入門	情報活用基礎Ⅱ	
	後期	教育総論	生活経営学Ⅱ	特別支援教育の実践	スポーツ実技b	
		特別支援教育の基礎	被服学Ⅰ	外国人の子どもの理解と支援		
			被服学Ⅱ			
			住居学Ⅰ			
			住居学Ⅱ			
			住居学演習Ⅰ（製図を含む。）			
			住居学演習Ⅱ			
2年次	前期	学校の役割と経営	家族関係学Ⅰ	人権教育の基礎	外国語コミュニケーション	
		学校安全	家族関係学Ⅱ	発達障害教育論		
		ICT活用の理論と方法	被服学Ⅲ	教科横断と探究学習Ⅰ		
		生徒指導論	食物学Ⅰ（栄養学及び食品学を含む。）	教育データの活用Ⅰ		
		中等家庭科教育法Ⅰ	食物学Ⅱ	生活機器論（情報処理を含む。）		
			保育学実習Ⅰ（家庭看護を含む。）			
			保育学Ⅲ			
			保育学実習Ⅱ			
	後期	教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）	被服製作実習Ⅰ	ファシリテーターとしての教員Ⅰ		
		教育方法論	被服製作実習Ⅱ	学習者中心の授業デザインⅠ		
		進路指導論	調理学実習Ⅰ			
		中等家庭科教育法Ⅱ	調理学実習Ⅱ			
			住環境と安全			

	通年			教職インターンシップⅠ		
				教職専門性と省察		
3年次	前期	総合的な学習の時間の指導法	被服製作実習Ⅲ	小・中一貫教育概論		
		教育相談の理論と方法	被服学実験	教科横断と探究学習Ⅱ		
		中等家庭科教育法Ⅲ	調理学実習Ⅲ	教育データの活用Ⅱ		
			食物学Ⅲ	家庭科教育学演習		
			食物学実験			
			保育学演習			
	後期	道徳教育論		人権教育の実践		
		特別活動論		ファシリテーターとしての教員Ⅱ		
		中等家庭科教育法Ⅳ		学習者中心の授業デザインⅡ		
		教育実習		生活研究論Ⅰ		
				生活調査研究法Ⅰ		
	通年			教職インターンシップⅡ		
				特別支援学校インターンシップ		
4年次	前期			生活研究論Ⅱ		
		教職実践演習		生活調査研究法Ⅱ		
	後期					
	通年			連携協働活動演習		

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免（英語））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職の意義や教員の役割、職務内容について学び、教職への動機づけを図る。また、子どもの発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸問題、教育測定と評価などについて理解する。さらに、現代社会におけるダイバーシティの基本理念や子どもの諸権利、インクルーシブ教育の理念についての理解を深める。 中学校英語科教諭に必要な英語学・英語文学・英語コミュニケーションに関する基礎的知識を修得する。また、自身の被教育経験を相対化し、多様な学校教育の可能性に照らして個別具体的な学校現場の経験から学び続けるための素地を形成する。
	後期	教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解する。外国にルーツのある子どもの多様性の理解及びその支援等の理解を深める。 また、中学校英語科教諭に必要な英語学・英語コミュニケーション・異文化理解に関する基礎的知識を養う。
2年次	前期	人権侵害や差別の現状、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。また、今日における生徒指導上の諸問題に関する理論的・実践的な認識を身につけるとともに、中学校教諭に必要な学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。 さらに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する基礎的な知識・技能やデータの収集と理解の基礎となる考え方および基礎的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、英語科教諭に必要な英語学・英文学に関する基礎的知識を修得し、技能や方法を身につける。さらには、学校インターンシップによる現場観察・実習を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。
	後期	学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、今日の授業づくりの方法と技術を身につける。 教育ファシリテーションの理論的な背景、基礎に関する知識を学ぶとともに、現代までの教育から学習者中心の授業改善プロセスを構想する授業づくりの原理を理解する。さらに、生涯にわたる教師の発達と学習のあり方、および教師の学びを支える教員研修の意義及び制度上の位置づけを理解し、教師としての学びを実践する。 教材開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身につける。
3年次	前期	教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。 さらに、教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する発展的な知識・技能を学ぶとともに、多様なデータの特徴とその意義について理解し、応用的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、4技能の総合的な育成のための理論や指導技術を修得するため、英語学や英語教育学について専門的に学ぶ。加えて、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。
	後期	子ども理解と自治活動の指導を中心にして特別活動の視点を学ぶ。また、日本における道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し、道徳教育に関する基礎的知識を修得する。さらに、学習指導要領を踏まえた指導案を作成し、道徳教育に関する理解を深める。これまでの科目を修得した上で教育実習で附属学校や協力校での実習を行い、学校現場における経験から、成果と課題を再認識する。さらに、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図る。 また、教育ファシリテーションの理論的な背景や現代的な諸論点に関する知識を学ぶとともに、学習者中心の授業改善のプロセスを構想する授業過程と教育評価に関する知識・技能を身に付ける。
4年次	前期	教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。
	後期	4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。また、中学校英語科教諭としての専門性を備えた卒業研究を行う。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免（英語））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職へのとびら	英語音声学Ⅰ	ダイバーシティと教育	日本国憲法	
		発達と学習の心理学	Introduction to British and American Literature	現代社会と子どもの権利	スポーツ実技a	
			Intergrated EnglishⅠ	多様な子どもとインクルーシブ教育	情報活用基礎Ⅰ	
			Speech Communication in EnglishⅠ	教職のための省察入門	情報活用基礎Ⅱ	
	後期	教育総論	英語音声学Ⅱ	特別支援教育の実践	スポーツ実技b	
		特別支援教育の基礎	Speech Communication in EnglishⅡ	外国人の子どもの理解と支援		
			比較文化論			
2年次	前期	学校の役割と経営	Introduction to English LinguisticsⅠ	人権教育の基礎	外国語コミュニケーション	
		学校安全	History of British and American Literature	発達障害教育論		
		ICT活用の理論と方法	Intergrated EnglishⅡ	教科横断と探究学習Ⅰ		
		生徒指導論	Advanced CommunicationⅠ	教育データの活用Ⅰ		
		中等英語科教育法Ⅰ		中等英語科授業研究		
	後期	教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）	英文法研究	ファシリテーターとしての教員Ⅰ		
		教育方法論	応用言語学	学習者中心の授業デザインⅠ		
		進路指導論	Introduction to English LinguisticsⅡ	英語科評価論		
		中等英語科教育法Ⅱ	Advanced CommunicationⅡ			
	通年			教職インターンシップⅠ		
				教職専門性と省察		
	前期	総合的な学習の時間の指導法	英語学研究Ⅰ	小・中一貫教育概論		
		教育相談の理論と方法	Advanced CommunicationⅢ	教科横断と探究学習Ⅱ		
		中等英語科教育法Ⅲ		教育データの活用Ⅱ		

3年次	後期	道徳教育論	英語学研究Ⅱ	人権教育の実践		
		特別活動論	Advanced CommunicationⅣ	ファシリテーターとしての教員Ⅱ		
		中等英語科教育法Ⅳ		学習者中心の授業デザインⅡ		
		教育実習				
	通年			教職インターンシップⅡ		
				特別支援学校インターンシップ		
4年次	前期					
	後期	教職実践演習	Academic Writing			
	通年			連携協働活動演習		

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免（国語））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職の意義や教員の役割、職務内容について学び、教職への動機づけを図る。また、子どもの発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸問題、教育測定と評価などについて理解する。さらに、現代社会におけるダイバーシティの基本理念や子どもの諸権利、インクルーシブ教育の理念についての理解を深める。 高等学校国語科教諭に必要な漢文学に関する基礎的知識を修得し、漢文読解の基礎力を養う。また、自身の被教育経験を相対化し、多様な学校教育の可能性に照らして個別具体的な学校現場の経験から学び続けるための素地を形成する。
	後期	教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解する。外国にルーツのある子どもの多様性の理解及びその支援等の理解を深める。 また、高等学校国語科教諭に必要な国語学及び国文学に関する基礎的知識を養う。
2年次	前期	人権侵害や差別の現状、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。また、今日における生徒指導上の諸問題に関する理論的・実践的な認識を身につけるとともに、高等学校教諭に必要な学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。さらに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する基礎的な知識・技能やデータの収集と理解の基礎となる考え方および基礎的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、高等学校国語科教諭に必要な国文学・国語学に関する基礎的知識を修得し、技能や方法を身につける。さらには、学校インターンシップによる現場観察・実習を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。
	後期	学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、今日の授業づくりの方法と技術を身につける。 教育ファシリテーションの理論的な背景、基礎に関する知識を学ぶとともに、現代までの教育から学習者中心の授業改善プロセスを構想する授業づくりの原理を理解する。さらに、生涯にわたる教師の発達と学習のあり方、および教師の学びを支える教員研修の意義及び制度上の位置づけを理解し、教師としての学びを実践する。 教材開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身につける。
3年次	前期	教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。 さらに、教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する発展的な知識・技能を学ぶとともに、多様なデータの特徴とその意義について理解し、応用的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、国文学・国語学すべての分野で作品読解を中心とする実践力を養う。さらに、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図る。
	後期	子ども理解と自治活動の指導を中心にして特別活動の視点を学ぶ。 加えて、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。 また、教育ファシリテーションの理論的な背景や現代的な諸論点に関する知識を学ぶとともに、学習者中心の授業改善のプロセスを構想する授業過程と教育評価に関する知識・技能を身に付ける。
4年次	前期	これまでの科目を修得した上で教育実習で附属学校や協力校での実習を行い、学校現場における経験から、成果と課題を再認識する。 教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。
	後期	4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。また、高等学校国語科教諭としての専門性を備えた卒業研究を行う。

様式第7号ウ（教諭）

<学校教育教員養成課程>（認定課程：高一種免（国語））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職へのとびら	漢文学概論A	ダイバーシティと教育	日本国憲法	
		発達と学習の心理学	漢文学概論B	現代社会と子どもの権利	スポーツ実技a	
				多様な子どもとインクルーシブ教育	情報活用基礎Ⅰ	
				国語科教育入門A	情報活用基礎Ⅱ	
				国語科教育入門B		
				教職のための省察入門		
	後期	教育総論	国語学概論A	特別支援教育の実践	スポーツ実技b	
		特別支援教育の基礎	国語学概論B	外国人の子どもの理解と支援		
			国文学概論A			
			国文学概論B			
2年次	前期	学校の役割と経営	国語学特論A	人権教育の基礎	外国語コミュニケーション	
		学校安全	国語学特論B	発達障害教育論		
		ICT活用の理論と方法	国文学特論A	教科横断と探究学習Ⅰ		
		生徒指導論	国文学特論B	教育データの活用Ⅰ		
		中等国語科教育法Ⅰ		国語科資質・能力開発論Ⅰ		
	後期	教育課程論(カリキュラム・マネジメントを含む。)		ファシリテーターとしての教員Ⅰ		
		教育方法論		学習者中心の授業デザインⅠ		
		進路指導論		国語科資質・能力開発論Ⅱ		
		中等国語科教育法Ⅱ				
	通年			教職インターンシップⅠ		
				教職専門性と省察		
	前期	総合的な学習の時間の指導法	国語学講義ⅠA	小・中一貫教育概論		
		教育相談の理論と方法	国語学講義ⅠB	教科横断と探究学習Ⅱ		
		中等国語科教育法Ⅲ	国文学講義ⅠA	教育データの活用Ⅱ		
			国文学講義ⅠB	国語科授業実践論		

3年次				国語教育実践演習Ⅰ		
	後期	特別活動論	国語学講義Ⅱ	道徳教育論		
		中等国語科教育法Ⅳ	国文学講義Ⅱ	人権教育の実践		
				ファシリテーターとしての教員Ⅱ		
				学習者中心の授業デザインⅡ		
				小中連携国語科学習開発論		
				国語教育実践演習Ⅱ		
	通年			教職インターンシップⅡ		
				特別支援学校インターンシップ		
4年次	前期	教育実習	国語学研究Ⅰ	国語教育学研究Ⅰ		
			国文学研究Ⅰ	国語教育ゼミナールⅠ		
	後期	教職実践演習	国語学研究Ⅱ	国語教育学研究Ⅱ		
			国文学研究Ⅱ	国語教育ゼミナールⅡ		
	通年			連携協働活動演習		

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免（地理歴史））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職の意義や教員の役割、職務内容について学び、教職への動機づけを図る。また、子どもの発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸問題、教育測定と評価などについて理解する。さらに、現代社会におけるダイバーシティの基本理念や子どもの諸権利、インクルーシブ教育の理念についての理解を深める。さらに、自身の被教育経験を相対化し、多様な学校教育の可能性に照らして個別具体的な学校現場の経験から学び続けるための素地を形成する。
	後期	教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解する。外国にルーツのある子どもの実態と教育課題、及びその支援等の理解を深める。 また、高等学校地理歴史科教諭に必要な外国史や地理学に関する基礎的知識を修得する。
2年次	前期	人権侵害や差別の現状、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。また、今日における生徒指導上の諸問題に関する理論的・実践的な認識を身につけるとともに、高等学校教諭に必要な学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。さらに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する基礎的な知識・技能やデータの収集と理解の基礎となる考え方および基礎的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、高等学校地理歴史科教諭に必要な日本史に関する基礎的知識を修得し、技能や方法を身につける。さらには、学校インターンシップによる現場観察・実習を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。加えて、教材開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身につける。
	後期	学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、今日の授業づくりの方法と技術を身につける。 教育ファシリテーションの理論的な背景、基礎に関する知識を学ぶとともに、現代までの教育から学習者中心の授業改善プロセスを構想する授業づくりの原理を理解する。さらに、生涯にわたる教師の発達と学習のあり方、および教師の学びを支える教員研修の意義及び制度上の位置づけを理解し、教師としての学びを実践する。
3年次	前期	教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。 さらに、教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する発展的な知識・技能を学ぶとともに、多様なデータの特徴とその意義について理解し、応用的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、日本史・外国史・地理学の分野の専門性を高める。加えて、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。
	後期	子ども理解と自治活動の指導を中心にして特別活動の視点を学ぶ。 また、教育ファシリテーションの理論的な背景や現代的な諸論点に関する知識を学ぶとともに、学習者中心の授業改善のプロセスを構想する授業過程と教育評価に関する知識・技能を身に付ける。
4年次	前期	これまでの科目を修得した上で教育実習で附属学校や協力校での実習を行い、学校現場における経験から、成果と課題を再認識する。 教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。
	後期	4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。また、高等学校地理歴史科教諭としての専門性を備えた卒業研究を行う。

様式第7号ウ（教諭）

<学校教育教員養成課程>（認定課程：高一種免（地理歴史））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職へのとびら		ダイバーシティと教育	日本国憲法	
		発達と学習の心理学		現代社会と子どもの権利	スポーツ実技a	
				多様な子どもとインクルーシブ教育	情報活用基礎Ⅰ	
				教職のための省察入門	情報活用基礎Ⅱ	
	後期	教育総論	世界史概説	特別支援教育の実践	スポーツ実技b	
		特別支援教育の基礎	自然地理学の基礎	外国人の子どもの理解と支援		
			人文地理学の基礎			
			地誌概論			
2年次	前期	学校の役割と経営	日本史概説	人権教育の基礎	外国語コミュニケーション	
		学校安全		発達障害教育論		
		ICT活用の理論と方法		教科横断と探究学習Ⅰ		
		生徒指導論		教育データの活用Ⅰ		
		中等社会科（地歴）教育法Ⅰ		社会科教育学基礎論		
	後期	教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）	歴史探究の基礎	ファシリテーターとしての教員Ⅰ		
		教育方法論	地理学概論	学習者中心の授業デザインⅠ		
		進路指導論				
	通年			教職インターンシップⅠ		
				教職専門性と省察		
	前期	総合的な学習の時間の指導法	日本史特講Ⅰ	小・中一貫教育概論		
		教育相談の理論と方法	東洋史特講	教科横断と探究学習Ⅱ		
		中等社会科（地歴）教育法Ⅲ	自然地理学特講	教育データの活用Ⅱ		
				社会科基礎演習Ⅰ		

3年次	後期	特別活動論	日本史特講Ⅱ	道徳教育論		
			西洋史特講	人権教育の実践		
			人文地理学特講	ファシリテーターとしての教員Ⅱ		
			地理探究の基礎	学習者中心の授業デザインⅡ		
				社会科基礎演習Ⅱ		
	通年			教職インターンシップⅡ		
				特別支援学校インターンシップ		
4年次	前期	教育実習		社会科発展演習Ⅰ		
	後期	教職実践演習		社会科発展演習Ⅱ		
	通年			連携協働活動演習		

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免（公民））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職の意義や教員の役割、職務内容について学び、教職への動機づけを図る。また、子どもの発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸問題、教育測定と評価などについて理解する。さらに、現代社会におけるダイバーシティの基本理念や子どもの諸権利、インクルーシブ教育の理念についての理解を深める。 高等学校公民科教諭に必要な哲学や経済学に関する基礎的知識を修得する。また、自身の被教育経験を相対化し、多様な学校教育の可能性に照らして個別具体的な学校現場の経験から学び続けるための素地を形成する。
	後期	教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解する。外国にルーツのある子どもの実態と教育課題、及びその支援等の理解を深める。 また、高等学校公民科教諭に必要な社会学に関する基礎的知識を修得する。
2年次	前期	人権侵害や差別の現状、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。また、今日における生徒指導上の諸問題に関する理論的・実践的な認識を身につけるとともに、高等学校教諭に必要な学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。さらに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する基礎的な知識・技能やデータの収集と理解の基礎となる考え方および基礎的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、高等学校公民科教諭に必要な倫理学に関する基礎的知識を修得し、技能や方法を身につける。さらには、学校インターンシップによる現場観察・実習を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。
	後期	学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、今日の授業づくりの方法と技術を身につける。 教育ファシリテーションの理論的な背景、基礎に関する知識を学ぶとともに、現代までの教育から学習者中心の授業改善プロセスを構想する授業づくりの原理を理解する。さらに、生涯にわたる教師の発達と学習のあり方、および教師の学びを支える教員研修の意義及び制度上の位置づけを理解し、教師としての学びを実践する。 教材開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身につける。
3年次	前期	教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。 さらに、教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する発展的な知識・技能を学ぶとともに、多様なデータの特徴とその意義について理解し、応用的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、哲学の分野の専門性を高める。
	後期	子ども理解と自治活動の指導を中心にして特別活動の視点を学ぶ。 さらに、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。 また、教育ファシリテーションの理論的な背景や現代的な諸論点に関する知識を学ぶとともに、学習者中心の授業改善のプロセスを構想する授業過程と教育評価に関する知識・技能を身に付ける。
4年次	前期	これまでの科目を修得した上で教育実習で附属学校や協力校での実習を行い、学校現場における経験から、成果と課題を再認識する。 教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。
	後期	4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。また、高等学校公民科教諭としての専門性を備えた卒業研究を行う。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免（公民））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職へのとびら	経済学	ダイバーシティと教育	日本国憲法	
		発達と学習の心理学	哲学の基礎	現代社会と子どもの権利	スポーツ実技a	
				多様な子どもとインクルーシブ教育	情報活用基礎Ⅰ	
				教職のための省察入門	情報活用基礎Ⅱ	
	後期	教育総論	社会学	特別支援教育の実践	スポーツ実技b	
		特別支援教育の基礎		外国人の子どもの理解と支援		
2年次	前期	学校の役割と経営	社会調査	人権教育の基礎	外国語コミュニケーション	
		学校安全	西洋思想概論	発達障害教育論		
		ICT活用の理論と方法	倫理学諸問題	教科横断と探究学習Ⅰ		
		生徒指導論		教育データの活用Ⅰ		
				社会科教育学基礎論		
	後期	教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）	法律学	ファシリテーターとしての教員Ⅰ		
		教育方法論	政治学	学習者中心の授業デザインⅠ		
		進路指導論	倫理学の基礎			
		中等社会科（公民）教育法Ⅱ				
	通年			教職インターンシップⅠ		
				教職専門性と省察		
	前期	総合的な学習の時間の指導法	哲学諸問題	小・中一貫教育概論		
		教育相談の理論と方法		教科横断と探究学習Ⅱ		
				教育データの活用Ⅱ		
				社会科基礎演習Ⅰ		

3年次	後期	道徳教育論	社会学特講	道徳教育論		
		特別活動論	人間と宗教	人権教育の実践		
		中等社会科(公民)教育法Ⅳ		ファシリテーターとしての教員Ⅱ		
				学習者中心の授業デザインⅡ		
				公民科探究		
				社会科基礎演習Ⅱ		
	通年			教職インターンシップⅡ		
				特別支援学校インターンシップ		
4年次	前期	教育実習		社会科発展演習Ⅰ		
	後期	教職実践演習		社会科発展演習Ⅱ		
	通年			連携協働活動演習		

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免（数学））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職の意義や教員の役割、職務内容について学び、教職への動機づけを図る。また、子どもの発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸問題、教育測定と評価などについて理解する。さらに、現代社会におけるダイバーシティの基本理念や子どもの諸権利、インクルーシブ教育の理念についての理解を深める。 高等学校数学科教諭に必要な代数学や解析学に関する基礎的知識を修得する。また、自身の被教育経験を相対化し、多様な学校教育の可能性に照らして個別具体的な学校現場の経験から学び続けるための素地を形成する。
	後期	教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解する。外国にルーツのある子どもの実態と教育課題、及びその支援等の理解を深める。 また、高等学校数学科教諭に必要な代数学や解析学に関する基礎的知識を修得する。
2年次	前期	人権侵害や差別の現状、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。また、今日における生徒指導上の諸問題に関する理論的・実践的な認識を身につけるとともに、高等学校教諭に必要な学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。さらに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する基礎的な知識・技能やデータの収集と理解の基礎となる考え方および基礎的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、高等学校数学科教諭に必要な幾何学や統計学に関する基礎的知識を修得し、技能や方法を身につける。さらには、学校インターンシップによる現場観察・実習を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。
	後期	学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、今日の授業づくりの方法と技術を身につける。 教育ファシリテーションの理論的な背景、基礎に関する知識を学ぶとともに、現代までの教育から学習者中心の授業改善プロセスを構想する授業づくりの原理を理解する。さらに、生涯にわたる教師の発達と学習のあり方、および教師の学びを支える教員研修の意義及び制度上の位置づけを理解し、教師としての学びを実践する。 教材開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身につける。
3年次	前期	教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。 さらに、教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する発展的な知識・技能を学ぶとともに、多様なデータの特徴とその意義について理解し、応用的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、代数学・幾何学・解析学・確率論の各分野の専門性を高める。さらに、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図る。
	後期	子ども理解と自治活動の指導を中心にして特別活動の視点を学ぶ。 加えて、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。 また、教育ファシリテーションの理論的な背景や現代的な諸論点に関する知識を学ぶとともに、学習者中心の授業改善のプロセスを構想する授業過程と教育評価に関する知識・技能を身に付ける。
4年次	前期	これまでの科目を修得した上で教育実習で附属学校や協力校での実習を行い、学校現場における経験から、成果と課題を再認識する。 教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。
	後期	4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。また、高等学校数学科教諭としての専門性を備えた卒業研究を行う。

様式第7号ウ（教諭）

<学校教育教員養成課程>（認定課程：高一種免（数学））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職へのとびら	線形代数学a	ダイバーシティと教育	日本国憲法	
		発達と学習の心理学	微分積分学a	現代社会と子どもの権利	スポーツ実技a	
				多様な子どもとインクルーシブ教育	情報活用基礎Ⅰ	
				教職のための省察入門	情報活用基礎Ⅱ	
	後期	教育総論	線形代数学b	特別支援教育の実践	スポーツ実技b	
		特別支援教育の基礎	微分積分学b	外国人の子どもの理解と支援		
2年次	前期	学校の役割と経営	代数学a	人権教育の基礎	外国語コミュニケーション	
		学校安全	距離空間	発達障害教育論		
		ICT活用の理論と方法	解析学a	教科横断と探究学習Ⅰ		
		生徒指導論	確率統計概論	教育データの活用Ⅰ		
		数学科教育法Ⅰ				
	後期	教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）	代数学b	ファシリテーターとしての教員Ⅰ		
		教育方法論	幾何学	学習者中心の授業デザインⅠ		
		進路指導論	解析学b			
		数学科教育法Ⅱ	コンピュータ			
	通年			教職インターンシップⅠ		
				教職専門性と省察		
	前期	総合的な学習の時間の指導法	代数学c	小・中一貫教育概論		
		教育相談の理論と方法	代数学Ⅰ	教科横断と探究学習Ⅱ		
		数学科教育法Ⅲ	幾何学Ⅰ	教育データの活用Ⅱ		
			解析学Ⅰ	算数・数学教育論		
			応用数理Ⅰ			

3年次	後期	特別活動論	確率論	道德教育論		
		数学科教育法Ⅳ	代数学Ⅱ	人権教育の実践		
			幾何学Ⅱ	ファシリテーターとしての教員Ⅱ		
			解析学 ^c	学習者中心の授業デザインⅡ		
			解析学Ⅱ	数理探求		
	通年			教職インターンシップⅡ		
				特別支援学校インターンシップ		
4年次	前期	教育実習	応用数理Ⅱ	数学演習a		
	後期	教職実践演習		数学演習b		
	通年			連携協働活動演習		

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免（理科））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職の意義や教員の役割、職務内容について学び、教職への動機づけを図る。また、子どもの発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸問題、教育測定と評価などについて理解する。さらに、現代社会におけるダイバーシティの基本理念や子どもの諸権利、インクルーシブ教育の理念についての理解を深める。 高等学校理科教諭に必要な物理学や化学に関する基礎的知識を修得する。また、自身の被教育経験を相対化し、多様な学校教育の可能性に照らして個別具体的な学校現場の経験から学び続けるための素地を形成する。
	後期	教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解する。外国にルーツのある子どもの実態と教育課題、及びその支援等の理解を深める。 また、高等学校理科教諭に必要な生物学や地学に関する基礎的知識を修得する。
2年次	前期	人権侵害や差別の現状、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。また、今日における生徒指導上の諸問題に関する理論的・実践的な認識を身につけるとともに、高等学校教諭に必要な学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。さらに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する基礎的な知識・技能やデータの収集と理解の基礎となる考え方および基礎的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、高等学校理科教諭に必要な物理学や化学の基礎力を養う。さらには、学校インターンシップによる現場観察・実習を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。
	後期	学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、今日の授業づくりの方法と技術を身につける。 教育ファシリテーションの理論的背景、基礎に関する知識を学ぶとともに、現代までの教育から学習者中心の授業改善プロセスを構想する授業づくりの原理を理解する。さらに、生涯にわたる教師の発達と学習のあり方、および教師の学びを支える教員研修の意義及び制度上の位置づけを理解し、教師としての学びを実践する。 教材開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身につける。
3年次	前期	教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。 さらに、教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する発展的な知識・技能を学ぶとともに、多様なデータの特徴とその意義について理解し、応用的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、物理学・化学・生物学・地学の各分野の専門性を高める。さらに、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図る。
	後期	子ども理解と自治活動の指導を中心にして特別活動の視点を学ぶ。 加えて、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。 また、教育ファシリテーションの理論的背景や現代的な諸論点に関する知識を学ぶとともに、学習者中心の授業改善のプロセスを構想する授業過程と教育評価に関する知識・技能を身に付ける。
4年次	前期	これまでの科目を修得した上で教育実習で附属学校や協力校での実習を行い、学校現場における経験から、成果と課題を再認識する。 教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。
	後期	4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。また、高等学校理科教諭としての専門性を備えた卒業研究を行う。

様式第7号ウ（教諭）

<学校教育教員養成課程>（認定課程：高一種免（理科））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職へのとびら	物理学ⅠA	ダイバーシティと教育	日本国憲法	
		発達と学習の心理学	物理学ⅠB	現代社会と子どもの権利	スポーツ実技a	
			化学ⅠA	多様な子どもとインクルーシブ教育	情報活用基礎Ⅰ	
			化学ⅠB	教職のための省察入門	情報活用基礎Ⅱ	
			科学のための数学			
	後期	教育総論	生物学ⅠA	特別支援教育の実践	スポーツ実技b	
		特別支援教育の基礎	生物学ⅠB	外国人の子どもの理解と支援		
			地学ⅠA			
			地学ⅠB			
2年次	前期	学校の役割と経営	物理学ⅡA	人権教育の基礎	外国語コミュニケーション	
		学校安全	物理学ⅡB	発達障害教育論		
		ICT活用の理論と方法	化学ⅡA	教科横断と探究学習Ⅰ		
		生徒指導論	化学ⅡB	教育データの活用Ⅰ		
		中等理科教育法Ⅰ	電磁気学			
			無機化学入門			
			物理化学			
			動物科学			
			植物科学			
			気象学			
			天文学			
			化学実験Ⅰ			
			生物学実験Ⅰ			

	後期	教育課程論(カリキュラム・マネジメントを含む。)	生物学ⅡA	ファシリテーターとしての教員Ⅰ		
		教育方法論	生物学ⅡB	学習者中心の授業デザインⅠ		
		進路指導論	地学ⅡA			
		中等理科教育法Ⅱ	地学ⅡB			
			力学			
			物理学実験Ⅰ			
			地学実験Ⅰ			
			地球学			
	通年			教職インターンシップⅠ		
				教職専門性と省察		
3年次	前期	総合的な学習の時間の指導法	化学Ⅲ	小・中一貫教育概論		
		教育相談の理論と方法	生物学Ⅲ	教科横断と探究学習Ⅱ		
		中等理科教育法Ⅱ	地学Ⅲ	教育データの活用Ⅱ		
			熱力学			
			物理学実験Ⅱ			
			生命科学			
			生物学実験Ⅱ			
	後期	特別活動論	物理学Ⅲ	道徳教育論		
		中等理科教育法Ⅳ	反応有機化学	人権教育の実践		
				ファシリテーターとしての教員Ⅱ		
			化学実験Ⅱ	学習者中心の授業デザインⅡ		
	通年			教職インターンシップⅡ		
				特別支援学校インターンシップ		
	集中		地学野外実習			
4年次	前期	教育実習				
	後期	教職実践演習				
	通年			連携協働活動演習		

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免（音楽））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職の意義や教員の役割、職務内容について学び、教職への動機づけを図る。また、子どもの発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸問題、教育測定と評価などについて理解する。さらに、現代社会におけるダイバーシティの基本理念や子どもの諸権利、インクルーシブ教育の理念についての理解を深める。 高等学校音楽科教諭に必要な音楽理論・作曲法・編曲法に関する基礎的知識を修得し、ソルフェージュ能力を身につける。また、自身の被教育経験を相対化し、多様な学校教育の可能性に照らして個別具体的な学校現場の経験から学び続けるための素地を形成する。
	後期	教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解する。外国にルーツのある子どもの実態と教育課題、及びその支援等の理解を深める。 また、高等学校音楽科教諭に必要な声楽演奏の基礎技術を身につける。
2年次	前期	人権侵害や差別の現状、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。また、今日における生徒指導上の諸問題に関する理論的・実践的な認識を身につけるとともに、高等学校教諭に必要な学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。さらに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身につける。 教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する基礎的な知識・技能やデータの収集と理解の基礎となる考え方および基礎的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、伴奏・合奏等アンサンブルの技術を身につけ、幅広い演奏の技術を修得する。さらに、学校インターンシップによる現場観察・実習を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。
	後期	学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、今日の授業づくりの方法と技術を身につける。 教育ファシリテーションの理論的な背景、基礎に関する知識を学ぶとともに、現代までの教育から学習者中心の授業改善プロセスを構想する授業づくりの原理を理解する。さらに、生涯にわたる教師の発達と学習のあり方、および教師の学びを支える教員研修の意義及び制度上の位置づけを理解し、教師としての学びを実践する。 教材開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身につける。
3年次	前期	教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。 さらに、教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する発展的な知識・技能を学ぶとともに、多様なデータの特徴とその意義について理解し、応用的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、教科指導に必要な演奏・指導の技術を磨き、教員としての資質を身につける。さらに、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図る。
	後期	子ども理解と自治活動の指導を中心にして特別活動の視点を学ぶ。 加えて、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。 また、教育ファシリテーションの理論的な背景や現代的な諸論点に関する知識を学ぶとともに、学習者中心の授業改善のプロセスを構想する授業過程と教育評価に関する知識・技能を身につける。
4年次	前期	これまでの科目を修得した上で教育実習で附属学校や協力校での実習を行い、学校現場における経験から、成果と課題を再認識する。 教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。
	後期	4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。また、高等学校音楽科教諭としての専門性を備えた卒業研究を行う。

様式第7号ウ（教諭）

<学校教育教員養成課程>（認定課程：高一種免（音楽））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職へのとびら	ソルフェージュ	ダイバーシティと教育	日本国憲法	
		発達と学習の心理学	ピアノ伴奏法	現代社会と子どもの権利	スポーツ実技a	
			創作表現Ⅰ	多様な子どもとインクルーシブ教育	情報活用基礎Ⅰ	
				教職のための省察入門	情報活用基礎Ⅱ	
	後期	教育総論	演奏基礎（こえ）	特別支援教育の実践	スポーツ実技b	
		特別支援教育の基礎	音楽学Ⅰ	外国人の子どもの理解と支援		
	通年		管弦（雅楽）Ⅰ			
2年次	前期	学校の役割と経営	合唱指導法（混声）Ⅰ	人権教育の基礎	外国語コミュニケーション	
		学校安全	演奏表現（こえ）Ⅰ	発達障害教育論		
		ICT活用の理論と方法	演奏表現（こえ）Ⅱ	教科横断と探究学習Ⅰ		
		生徒指導論	演奏基礎（ピアノ）	教育データの活用Ⅰ		
		中等音楽科教育法Ⅰ	演奏表現（ピアノ）Ⅰ	音楽教育学		
			演奏表現（ピアノ）Ⅱ			
			合奏Ⅰ			
			アンサンブル指導法			
	後期	教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）	合唱指導法（混声）Ⅱ	ファシリテーターとしての教員Ⅰ		
		教育方法論	演奏表現（こえ）Ⅲ	学習者中心の授業デザインⅠ		
		進路指導論	演奏表現（こえ）Ⅳ			
		中等音楽科教育法Ⅱ	演奏表現（ピアノ）Ⅲ			
			演奏表現（ピアノ）Ⅳ			
			合奏Ⅱ			
			創作表現Ⅱ			

	通年			教職インターンシップⅠ		
				教職専門性と省察		
3年次	前期	総合的な学習の時間の指導法	合唱指導法(混声)Ⅲ	小・中一貫教育概論		
		教育相談の理論と方法	同声合唱Ⅰ	教科横断と探究学習Ⅱ		
		中等音楽科教育法Ⅲ	和楽器アンサンブルⅠ	教育データの活用Ⅱ		
			合奏Ⅲ			
			音楽学Ⅱ			
			創作表現Ⅲ			
			スコアリーディング			
	後期	特別活動論	舞台表現演習(伝統音楽を含む。)	道徳教育論		
		中等音楽科教育法Ⅳ	合唱指導法(混声)Ⅳ	人権教育の実践		
			同声合唱Ⅱ	ファシリテーターとしての教員Ⅱ		
			合奏Ⅳ	学習者中心の授業デザインⅡ		
			和楽器アンサンブルⅡ			
			創作表現Ⅳ			
	通年			教職インターンシップⅡ		
				特別支援学校インターンシップ		
4年次	前期	教育実習	合唱指導法(混声)Ⅴ	音楽教育実践演習		
			同声合唱Ⅲ	音楽教育学研究各論演習Ⅰ		
			合奏Ⅴ			
			和楽器アンサンブルⅢ			
	後期	教職実践演習	合唱指導法(混声)Ⅵ	音楽教育学研究各論演習Ⅱ		
			同声合唱Ⅳ			
			合奏Ⅵ			
			和楽器アンサンブルⅣ			
	通年			連携協働活動演習		

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免（美術））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職の意義や教員の役割、職務内容について学び、教職への動機づけを図る。また、子どもの発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸問題、教育測定と評価などについて理解する。さらに、現代社会におけるダイバーシティの基本理念や子どもの諸権利、インクルーシブ教育の理念についての理解を深める。 高等学校美術科教諭に必要な絵画・彫刻・デザイン・美術史に関する基礎的知識を修得する。また、自身の被教育経験を相対化し、多様な学校教育の可能性に照らして個別具体的な学校現場の経験から学び続けるための素地を形成する。
	後期	教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解する。外国にルーツのある子どもの実態と教育課題、及びその支援等の理解を深める。 また、高等学校美術科教諭に必要な絵画・デザインに関する知識の向上を図る。
2年次	前期	人権侵害や差別の現状、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。また、今日における生徒指導上の諸問題に関する理論的・実践的な認識を身につけるとともに、高等学校教諭に必要な学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。さらに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する基礎的な知識・技能やデータの収集と理解の基礎となる考え方および基礎的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、美術科教諭に必要な美術理論に関する基礎的知識を修得する。さらには、学校インターンシップによる現場観察・実習を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。
	後期	学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、今日の授業づくりの方法と技術を身につける。 教育ファシリテーションの理論的な背景、基礎に関する知識を学ぶとともに、現代までの教育から学習者中心の授業改善プロセスを構想する授業づくりの原理を理解する。さらに、生涯にわたる教師の発達と学習のあり方、および教師の学びを支える教員研修の意義及び制度上の位置づけを理解し、教師としての学びを実践する。 教材開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身につける。
3年次	前期	教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。 さらに、教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する発展的な知識・技能を学ぶとともに、多様なデータの特徴とその意義について理解し、応用的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、これまでに修得した美術に関する知識をさらに深める。さらに、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図る。
	後期	子ども理解と自治活動の指導を中心にして特別活動の視点を学ぶ。 加えて、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。 また、教育ファシリテーションの理論的な背景や現代的な諸論点に関する知識を学ぶとともに、学習者中心の授業改善のプロセスを構想する授業過程と教育評価に関する知識・技能を身に付ける。
4年次	前期	これまでの科目を修得した上で教育実習で附属学校や協力校での実習を行い、学校現場における経験から、成果と課題を再認識する。 教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。
	後期	4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。また、高等学校美術科教諭としての専門性を備えた卒業研究を行う。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免（美術））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職へのとびら	絵画・彫刻表現基礎A	ダイバーシティと教育	日本国憲法	
		発達と学習の心理学	絵画・彫刻表現基礎B	現代社会と子どもの権利	スポーツ実技a	
			美術表現の基礎	多様な子どもとインクルーシブ教育	情報活用基礎Ⅰ	
			日本美術史概論	デッサン論	情報活用基礎Ⅱ	
				教職のための省察入門		
	後期	教育総論	デザイン・工芸表現基礎A	特別支援教育の実践	スポーツ実技b	
		特別支援教育の基礎	絵画基礎演習	外国人の子どもの理解と支援		
	通年		図法			
2年次	前期	学校の役割と経営	デザイン・工芸表現研究A	人権教育の基礎	外国語コミュニケーション	
		学校安全	美術理論Ⅰ	発達障害教育論		
		ICT活用の理論と方法	材料研究A	教科横断と探究学習Ⅰ		
		生徒指導論		教育データの活用Ⅰ		
		美術科教育法Ⅰ				
	後期	教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）	絵画・彫刻表現研究A	ファシリテーターとしての教員Ⅰ		
		教育方法論	絵画・彫刻表現研究B	学習者中心の授業デザインⅠ		
		進路指導論	絵画・彫刻表現発展研究A			
		美術科教育法Ⅱ	絵画・彫刻表現発展研究B			
			デザイン・工芸表現発展研究A			
			日本東洋美術史			
	通年			教職インターンシップⅠ		
				教職専門性と省察		

3年次	前期	総合的な学習の時間の指導法	美術理論Ⅱ	小・中一貫教育概論		
		教育相談の理論と方法		教科横断と探究学習Ⅱ		
		美術科教育法Ⅲ		教育データの活用Ⅱ		
				美術科応用研究Ⅰ		
	後期	特別活動論	彫刻演習	道徳教育論		
		美術科教育法Ⅳ	コミュニティとアート	人権教育の実践		
			デザイン演習	ファシリテーターとしての教員Ⅱ		
			美術史演習Ⅰ	学習者中心の授業デザインⅡ		
				美術科応用研究Ⅱ		
	通年		デザイン・工芸史	教職インターンシップⅡ		
			美術史演習Ⅱ	特別支援学校インターンシップ		
4年次	前期	教育実習		美術科発展研究Ⅰ		
	後期	教職実践演習		美術科発展研究Ⅱ		
	通年			連携協働活動演習		

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免（書道））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職の意義や教員の役割、職務内容について学び、教職への動機づけを図る。また、子どもの発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸問題、教育測定と評価などについて理解する。さらに、現代社会におけるダイバーシティの基本理念や子どもの諸権利、インクルーシブ教育の理念についての理解を深める。 高等学校書道科教諭に必要な書道の書法に関する基礎的知識を修得し、漢文学の知識を深める。また、自身の被教育経験を相対化し、多様な学校教育の可能性に照らして個別具体的な学校現場の経験から学び続けるための素地を形成する。
	後期	教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解する。外国にルーツのある子どもの実態と教育課題、及びその支援等の理解を深める。 また、高等学校書道科教諭に必要な国文学の知識を深める。
2年次	前期	人権侵害や差別の現状、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。また、今日における生徒指導上の諸問題に関する理論的・実践的な認識を身につけるとともに、高等学校教諭に必要な学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。さらに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する基礎的な知識・技能やデータの収集と理解の基礎となる考え方および基礎的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、書道科教諭に必要な書道史に関する基礎的知識を修得する。さらには、学校インターシップによる現場観察・実習を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。
	後期	学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、今日の授業づくりの方法と技術を身につける。 教育ファシリテーションの理論的な背景、基礎に関する知識を学ぶとともに、現代までの教育から学習者中心の授業改善プロセスを構想する授業づくりの原理を理解する。さらに、生涯にわたる教師の発達と学習のあり方、および教師の学びを支える教員研修の意義及び制度上の位置づけを理解し、教師としての学びを実践する。
3年次	前期	教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。 さらに、教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する発展的な知識・技能を学ぶとともに、多様なデータの特徴とその意義について理解し、応用的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、作品制作を通じて、書道に関する技術の向上を図る。さらに、教材開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身につける。
	後期	子ども理解と自治活動の指導を中心にして特別活動の視点を学ぶ また、教育ファシリテーションの理論的な背景や現代的な諸論点に関する知識を学ぶとともに、学習者中心の授業改善のプロセスを構想する授業過程と教育評価に関する知識・技能を身に付ける。 加えて、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。
4年次	前期	これまでの科目を修得した上で教育実習で附属学校や協力校での実習を行い、学校現場における経験から、成果と課題を再認識する。 教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。
	後期	4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。また、高等学校書道科教諭としての専門性を備えた卒業研究を行う。

様式第7号ウ（教諭）

<学校教育教員養成課程>（認定課程：高一種免（書道））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職へのとびら	楷書法研究Ⅰ	ダイバーシティと教育	日本国憲法	
		発達と学習の心理学	仮名書法研究Ⅰ	現代社会と子どもの権利	スポーツ実技a	
			漢文学概論A	多様な子どもとインクルーシブ教育	情報活用基礎Ⅰ	
			漢文学概論B	教職のための省察入門	情報活用基礎Ⅱ	
	後期	教育総論	国文学概論A	特別支援教育の実践	スポーツ実技b	
		特別支援教育の基礎	国文学概論B	外国人の子どもの理解と支援		
2年次	前期	学校の役割と経営	書道概論Ⅰ（書写を中心とする）	人権教育の基礎	外国語コミュニケーション	
		学校安全	行書法研究Ⅰ	発達障害教育論		
		ICT活用の理論と方法	草書法研究Ⅰ	教科横断と探究学習Ⅰ		
		生徒指導論	書道と文字学Ⅰ	教育データの活用Ⅰ		
			書道文化論Ⅰ			
			中国書道史			
	後期	教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）	書道概論Ⅱ（書写を中心とする）	ファシリテーターとしての教員Ⅰ		
		教育方法論	楷書法研究Ⅱ	学習者中心の授業デザインⅠ		
		進路指導論	行書法研究Ⅱ			
			草書法研究Ⅱ			
			仮名書法研究Ⅱ			
			篆刻法演習			
			板書実践指導			
			日本書道史			
	通年			教職インターンシップⅠ		
				教職専門性と省察		

3年次	前期	総合的な学習の時間の指導法	篆書法演習	小・中一貫教育概論		
		教育相談の理論と方法	漢字作品制作Ⅰ	教科横断と探究学習Ⅱ		
		書道科教育法Ⅰ	仮名作品制作Ⅰ	教育データの活用Ⅱ		
		教育実習	書道自由研究Ⅰ			
			書論研究			
	後期	特別活動論	隷書法演習	道徳教育論		
		書道科教育法Ⅱ	漢字作品制作Ⅱ	人権教育の実践		
			仮名作品制作Ⅱ	ファシリテーターとしての教員Ⅱ		
			書道と文字学Ⅱ	学習者中心の授業デザインⅡ		
			書道文化論Ⅱ			
			書鑑賞論			
	通年			教職インターンシップⅡ		
				特別支援学校インターンシップ		
4年次	前期	教育実習	実用書式の研究			
	後期	教職実践演習	書道自由研究Ⅱ			
	通年			連携協働活動演習		

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免（保健体育））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職の意義や教員の役割、職務内容について学び、教職への動機づけを図る。また、子どもの発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸問題、教育測定と評価などについて理解する。さらに、現代社会におけるダイバーシティの基本理念や子どもの諸権利、インクルーシブ教育の理念についての理解を深める。 高等学校保健体育科教諭に必要な身体運動文化の基本的な挙措を学ぶとともに、運動学や衛生学の基礎理論を理解する。また、自身の被教育経験を相対化し、多様な学校教育の可能性に照らして個別具体的な学校現場の経験から学び続けるための素地を形成する。
	後期	教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解する。外国にルーツのある子どもの実態と教育課題、及びその支援等の理解を深める。また、高等学校保健体育科教諭に必要な体育原理の基礎理論を理解する。
2年次	前期	人権侵害や差別の現状、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。また、今日における生徒指導上の諸問題に関する理論的・実践的な認識を身につけるとともに、高等学校教諭に必要な学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。さらに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する基礎的な知識・技能やデータの収集と理解の基礎となる考え方および基礎的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、高等学校保健体育科教諭に必要な各競技に係る技能や指導方法などを身につける。さらには、学校インターンシップによる現場観察・実習を通じて、教職実践に向けた基礎的な知識・技能を修得する。
	後期	学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、今日の授業づくりの方法と技術を身につける。 教育ファシリテーションの理論的な背景、基礎に関する知識を学ぶとともに、現代までの教育から学習者中心の授業改善プロセスを構想する授業づくりの原理を理解する。さらに、生涯にわたる教師の発達と学習のあり方、および教師の学びを支える教員研修の意義及び制度上の位置づけを理解し、教師としての学びを実践する。 教材開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身につける。
3年次	前期	教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。 さらに、教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する発展的な知識・技能を学ぶとともに、多様なデータの特徴とその意義について理解し、応用的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、スポーツ活動における栄養管理の基礎的事項を修得する。さらに、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図る。
	後期	子ども理解と自治活動の指導を中心にして特別活動の視点を学ぶ。 加えて、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。 また、教育ファシリテーションの理論的な背景や現代的な諸論点に関する知識を学ぶとともに、学習者中心の授業改善のプロセスを構想する授業過程と教育評価に関する知識・技能を身に付ける。
4年次	前期	これまでの科目を修得した上で教育実習で附属学校や協力校での実習を行い、学校現場における経験から、成果と課題を再認識する。 教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。
	後期	4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。また、高等学校保健体育科教諭としての専門性を備えた卒業研究を行う。

様式第7号ウ（教諭）

<学校教育教員養成課程>（認定課程：高一種免（保健体育））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職へのとびら	水泳	ダイバーシティと教育	日本国憲法	
		発達と学習の心理学	体づくり運動	現代社会と子どもの権利	スポーツ実技a	
			運動学Ⅰ	多様な子どもとインクルーシブ教育	情報活用基礎Ⅰ	
			運動生理学Ⅰ	体育指導法演習	情報活用基礎Ⅱ	
			衛生学及び公衆衛生学Ⅰ	教職のための省察入門		
			学校保健Ⅰ			
	後期	教育総論	器械運動	特別支援教育の実践	スポーツ実技b	
		特別支援教育の基礎	スポーツ教育原理	外国人の子どもの理解と支援		
			スポーツ社会学			
			運動学Ⅱ			
			運動生理学Ⅱ			
			衛生学及び公衆衛生学Ⅱ			
			学校保健Ⅱ			
2年次	前期	学校の役割と経営	陸上競技	人権教育の基礎	外国語コミュニケーション	
		学校安全	剣道	発達障害教育論		
		ICT活用の理論と方法	ソフトボール	教科横断と探究学習Ⅰ		
		生徒指導論	スポーツ心理学	教育データの活用Ⅰ		
		保健体育科教育法Ⅰ	スポーツマネジメント論			
			体育史			
	後期	教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）	ダンス	ファシリテーターとしての教員Ⅰ		
		教育方法論	柔道	学習者中心の授業デザインⅠ		
		進路指導論	武道指導論			
		保健体育科教育法Ⅱ				

	通年			教職インターンシップⅠ		
				教職専門性と省察		
3年次	前期	総合的な学習の時間の指導法	バレーボール	小・中一貫教育概論		
		教育相談の理論と方法	バスケットボール	教科横断と探究学習Ⅱ		
		保健体育科教育法Ⅲ	スポーツと栄養	教育データの活用Ⅱ		
	後期	特別活動論	サッカー	道徳教育論		
		保健体育科教育法Ⅰ	学校と地域スポーツ	人権教育の実践		
			発育発達学	ファシリテーターとしての教員Ⅱ		
				学習者中心の授業デザインⅡ		
	通年		スキー実習	教職インターンシップⅡ		
				特別支援学校インターンシップ		
4年次	前期	教育実習				
	後期	教職実践演習	テニス			
			ハンドボール			
			ラグビー			
	通年			連携協働活動演習		

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免（家庭））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職の意義や教員の役割、職務内容について学び、教職への動機づけを図る。また、子どもの発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸問題、教育測定と評価などについて理解する。さらに、現代社会におけるダイバーシティの基本理念や子どもの諸権利、インクルーシブ教育の理念についての理解を深める。 高等学校家庭科教諭に必要な家庭経営学や保育学に関する基礎的知識を修得する。また、自身の被教育経験を相対化し、多様な学校教育の可能性に照らして個別具体的な学校現場の経験から学び続けるための素地を形成する。
	後期	教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解する。外国にルーツのある子どもの実態と教育課題、及びその支援等の理解を深める。また、高等学校家庭科教諭に必要な被服学や住居学に関する基礎的知識を修得する。
2年次	前期	人権侵害や差別の現状、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。また、今日における生徒指導上の諸問題に関する理論的・実践的な認識を身につけるとともに、高等学校教諭に必要な学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。さらに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する基礎的な知識・技能やデータの収集と理解の基礎となる考え方および基礎的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、高等学校家庭科教諭に必要な食物学に関する基礎的知識を修得し、被服学や保育学に関する基礎力を養う。さらには、学校インターンシップによる現場観察・実習を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。
	後期	学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、今日の授業づくりの方法と技術を身につける。 教育ファシリテーションの理論的な背景、基礎に関する知識を学ぶとともに、現代までの教育から学習者中心の授業改善プロセスを構想する授業づくりの原理を理解する。さらに、生涯にわたる教師の発達と学習のあり方、および教師の学びを支える教員研修の意義及び制度上の位置づけを理解し、教師としての学びを実践する。 教材開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身につける。
3年次	前期	教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。 さらに、教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する発展的な知識・技能を学ぶとともに、多様なデータの特徴とその意義について理解し、応用的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、被服学・食物学・保育学の各分野の実習や実験を通じて専門性を高める。さらに、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図る。
	後期	子ども理解と自治活動の指導を中心にして特別活動の視点を学ぶ。 加えて、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。 また、教育ファシリテーションの理論的な背景や現代的な諸論点に関する知識を学ぶとともに、学習者中心の授業改善のプロセスを構想する授業過程と教育評価に関する知識・技能を身に付ける。
4年次	前期	これまでの科目を修得した上で教育実習で附属学校や協力校での実習を行い、学校現場における経験から、成果と課題を再認識する。 教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。
	後期	4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。また、高等学校家庭科教諭としての専門性を備えた卒業研究を行う。

様式第7号ウ（教諭）

<学校教育教員養成課程>（認定課程：高一種免（家庭））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職へのとびら	生活経営学Ⅰ（家庭経済学を含む。）	ダイバーシティと教育	日本国憲法	
		発達と学習の心理学	保育学Ⅰ	現代社会と子どもの権利	スポーツ実技a	
			保育学Ⅱ	多様な子どもとインクルーシブ教育	情報活用基礎Ⅰ	
				教職のための省察入門	情報活用基礎Ⅱ	
	後期	教育総論	生活経営学Ⅱ	特別支援教育の実践	スポーツ実技b	
		特別支援教育の基礎	被服学Ⅰ	外国人の子どもの理解と支援		
			被服学Ⅱ			
			住居学Ⅰ			
			住居学Ⅱ			
			住居学演習Ⅰ（製図を含む。）			
			住居学演習Ⅱ			
2年次	前期	学校の役割と経営	家族関係学Ⅰ	人権教育の基礎	外国語コミュニケーション	
		学校安全	家族関係学Ⅱ	発達障害教育論		
		ICT活用の理論と方法	被服学Ⅲ	教科横断と探究学習Ⅰ		
		生徒指導論	食物学Ⅰ（栄養学及び食品学を含む。）	教育データの活用Ⅰ		
		中等家庭科教育法Ⅰ	食物学Ⅱ			
			保育学実習Ⅰ（家庭看護を含む。）			
			保育学Ⅲ			
			保育学実習Ⅱ			
	後期		生活機器論（情報処理を含む。）			
		教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）	被服製作実習Ⅰ	ファシリテーターとしての教員Ⅰ		
		教育方法論	被服製作実習Ⅱ	学習者中心の授業デザインⅠ		
		進路指導論	調理学実習Ⅰ			
		中等家庭科教育法Ⅱ	調理学実習Ⅱ			
			住環境と安全			

	通年			教職インターンシップⅠ		
				教職専門性と省察		
3年次	前期	総合的な学習の時間の指導法	被服製作実習Ⅲ	小・中一貫教育概論		
		教育相談の理論と方法	被服学実験	教科横断と探究学習Ⅱ		
		中等家庭科教育法Ⅲ	調理学実習Ⅲ	教育データの活用Ⅱ		
			食物学Ⅲ	家庭科教育学演習		
			食物学実験			
			保育学演習			
	後期	特別活動論		道德教育論		
		中等家庭科教育法Ⅳ		人権教育の実践		
				ファシリテーターとしての教員Ⅱ		
				学習者中心の授業デザインⅡ		
				生活研究論Ⅰ		
				生活調査研究法Ⅰ		
	通年			教職インターンシップⅡ		
				特別支援学校インターンシップ		
4年次	前期	教育実習		生活研究論Ⅱ		
				生活調査研究法Ⅱ		
	後期	教職実践演習				
	通年			連携協働活動演習		

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免（情報））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職の意義や教員の役割、職務内容について学び、教職への動機づけを図る。また、子どもの発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸問題、教育測定と評価などについて理解する。さらに、現代社会におけるダイバーシティの基本理念や子どもの諸権利、インクルーシブ教育の理念についての理解を深める。 高等学校情報科教諭に必要な情報倫理や教育メディアに関する基礎的知識を修得する。また、自身の被教育経験を相対化し、多様な学校教育の可能性に照らして個別具体的な学校現場の経験から学び続けるための素地を形成する。
	後期	教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解する。外国にルーツのある子どもの実態と教育課題、及びその支援等の理解を深める。また、高等学校情報科教諭に必要なコンピュータ・情報処理に関する基礎的知識を修得する。
2年次	前期	人権侵害や差別の現状、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。また、今日における生徒指導上の諸問題に関する理論的・実践的な認識を身につけるとともに、高等学校教諭に必要な学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。さらに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する基礎的な知識・技能やデータの収集と理解の基礎となる考え方および基礎的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、情報科教諭に必要な情報システムに関する基礎的知識を修得し、技能や方法を身につけるとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身につける。さらには、学校インターンシップによる現場観察・実習を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。
	後期	学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、今日の授業づくりの方法と技術を身につける。 教育ファシリテーションの理論的な背景、基礎に関する知識を学ぶとともに、現代までの教育から学習者中心の授業改善プロセスを構想する授業づくりの原理を理解する。さらに、生涯にわたる教師の発達と学習のあり方、および教師の学びを支える教員研修の意義及び制度上の位置づけを理解し、教師としての学びを実践する。 実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。
3年次	前期	教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。 さらに、教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する発展的な知識・技能を学ぶとともに、多様なデータの特徴とその意義について理解し、応用的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、修得した情報処理や情報システムに関する知識を活用して実践力を養う。
	後期	子ども理解と自治活動の指導を中心にして特別活動の視点を学ぶ。 これまでの科目を修得した上で教育実習で附属学校や協力校での実習を行い、学校現場における経験から、成果と課題を再認識する。 また、教育ファシリテーションの理論的な背景や現代的な諸論点に関する知識を学ぶとともに、学習者中心の授業改善のプロセスを構想する授業過程と教育評価に関する知識・技能を身に付ける。
4年次	前期	教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。
	後期	4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。また、高等学校情報科教諭としての専門性を備えた卒業研究を行う。

様式第7号ウ（教諭）

<学校教育教員養成課程>（認定課程：高一種免（情報））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職へのとびら	情報倫理	ダイバーシティと教育	日本国憲法	
		発達と学習の心理学	教育メディア表現	現代社会と子どもの権利	スポーツ実技a	
				多様な子どもとインクルーシブ教育	情報活用基礎Ⅰ	
				教職のための省察入門	情報活用基礎Ⅱ	
	後期	教育総論	情報処理演習	特別支援教育の実践	スポーツ実技b	
		特別支援教育の基礎	情報と職業	外国人の子どもの理解と支援		
2年次	前期	学校の役割と経営	計算機科学	人権教育の基礎	外国語コミュニケーション	
		学校安全	プログラミングとグループワークⅠ	発達障害教育論		
		ICT活用の理論と方法	データサイエンスⅠ	教科横断と探究学習Ⅰ		
		生徒指導論	教育メディア技術	教育データの活用Ⅰ		
		情報化教育法Ⅰ				
	後期	教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）	プログラミングとグループワークⅡ	ファシリテーターとしての教員Ⅰ		
		教育方法論	プログラム言語	学習者中心の授業デザインⅠ		
		進路指導論	情報理論			
		情報化教育法Ⅱ				
	通年			教職インターンシップⅠ		
				教職専門性と省察		
	前期	総合的な学習の時間の指導法	システムソフトウェア	小・中一貫教育概論		
		教育相談の理論と方法	ロボット教材とプログラミングA	教科横断と探究学習Ⅱ		
			データサイエンスⅡ	教育データの活用Ⅱ		
			情報通信ネットワーク			
			ICTを活用した教材開発			

3年次	後期	特別活動論	データ構造とアルゴリズム	道徳教育論		
		教育実習	ロボット教材とプログラミングB	人権教育の実践		
			ソフトウェア設計・開発	ファシリテーターとしての教員Ⅱ		
			データベース演習	学習者中心の授業デザインⅡ		
			情報通信ネットワーク演習			
	通年			教職インターンシップⅡ		
				特別支援学校インターンシップ		
4年次	前期					
	後期	教職実践演習				
	通年			連携協働活動演習		

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免（工業））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職の意義や教員の役割、職務内容について学び、教職への動機づけを図る。また、子どもの発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸問題、教育測定と評価などについて理解する。さらに、現代社会におけるダイバーシティの基本理念や子どもの諸権利、インクルーシブ教育の理念についての理解を深める。 高等学校工業科教諭に必要な金属加工に関する基礎的知識を修得する。また、自身の被教育経験を相対化し、多様な学校教育の可能性に照らして個別具体的な学校現場の経験から学び続けるための素地を形成する。
	後期	教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解する。外国にルーツのある子どもの実態と教育課題、及びその支援等の理解を深める。また、高等学校工業科教諭に必要な木材加工・情報とコンピュータに関する基礎的知識を修得する。
2年次	前期	人権侵害や差別の現状、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。また、今日における生徒指導上の諸問題に関する理論的・実践的な認識を身につけるとともに、高等学校教諭に必要な学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。さらに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する基礎的な知識・技能やデータの収集と理解の基礎となる考え方および基礎的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、高等学校工業科教諭に必要な機械・電気に関する基礎的知識を修得するとともに、教材開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身につける。さらには、学校インターンシップによる現場観察・実習を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。
	後期	学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、今日の授業づくりの方法と技術を身につける。 教育ファシリテーションの理論的な背景、基礎に関する知識を学ぶとともに、現代までの教育から学習者中心の授業改善プロセスを構想する授業づくりの原理を理解する。さらに、生涯にわたる教師の発達と学習のあり方、および教師の学びを支える教員研修の意義及び制度上の位置づけを理解し、教師としての学びを実践する。 実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。
3年次	前期	教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。 さらに、教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する発展的な知識・技能を学ぶとともに、多様なデータの特徴とその意義について理解し、応用的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、機械・電気・情報・木材加工・金属加工の各分野の専門性を高める。
	後期	子ども理解と自治活動の指導を中心にして特別活動の視点を学ぶ。 また、教育ファシリテーションの理論的な背景や現代的な諸論点に関する知識を学ぶとともに、学習者中心の授業改善のプロセスを構想する授業過程と教育評価に関する知識・技能を身に付ける。
4年次	前期	これまでの科目を修得した上で教育実習で附属学校や協力校での実習を行い、学校現場における経験から、成果と課題を再認識する。 教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。
	後期	4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。また、高等学校工業科教諭としての専門性を備えた卒業研究を行う。

様式第7号ウ（教諭）

<学校教育教員養成課程>（認定課程：高一種免（工業））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職へのとびら	金属加工学Ⅰ（実習を含む。）	ダイバーシティと教育	日本国憲法	
		発達と学習の心理学		現代社会と子どもの権利	スポーツ実技a	
				多様な子どもとインクルーシブ教育	情報活用基礎Ⅰ	
				教職のための省察入門	情報活用基礎Ⅱ	
	後期	教育総論	木材加工学Ⅰ（実習を含む。）	特別支援教育の実践	スポーツ実技b	
		特別支援教育の基礎	情報基礎（実習を含む。）	外国人の子どもの理解と支援		
			プログラミング入門			
2年次	前期	学校の役割と経営	製図Ⅰ	人権教育の基礎	外国語コミュニケーション	
		学校安全	金属加工学実習	発達障害教育論		
		ICT活用の理論と方法	機械工学Ⅰ	教科横断と探究学習Ⅰ		
		生徒指導論	電気工学Ⅰ	教育データの活用Ⅰ		
		工業科教育法Ⅰ	情報基礎実習			
			データ処理			
	後期	教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）	木材加工学実習	ファシリテーターとしての教員Ⅰ		
		教育方法論	電気工学実験	学習者中心の授業デザインⅠ		
		進路指導論	製図Ⅱ			
		工業科教育法Ⅱ	機械工学Ⅱ			
			電気工学Ⅱ			
	通年			教職インターンシップⅠ		
				教職専門性と省察		
	前期	総合的な学習の時間の指導法	機械工学実験	小・中一貫教育概論		
		教育相談の理論と方法	木材加工学Ⅱ（実習を含む。）	教科横断と探究学習Ⅱ		
			金属加工学Ⅱ（実習を含む。）	教育データの活用Ⅱ		
			電子計算機			
		特別活動論	木材加工学Ⅲ	道徳教育論		

3年次	後期		金属加工学Ⅲ	人権教育の実践		
			制御・情報工学	ファシリテーターとしての教員Ⅱ		
			情報処理	学習者中心の授業デザインⅡ		
			職業指導			
	通年			教職インターンシップⅡ		
				特別支援学校インターンシップ		
4年次	前期	教育実習				
	後期	教職実践演習				
	通年			連携協働活動演習		

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免（英語））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職の意義や教員の役割、職務内容について学び、教職への動機づけを図る。また、子どもの発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸問題、教育測定と評価などについて理解する。さらに、現代社会におけるダイバーシティの基本理念や子どもの諸権利、インクルーシブ教育の理念についての理解を深める。 高等学校英語科教諭に必要な英語学・英語コミュニケーションに関する基礎的知識を修得する。また、自身の被教育経験を相対化し、多様な学校教育の可能性に照らして個別具体的な学校現場の経験から学び続けるための素地を形成する。
	後期	教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解する。外国にルーツのある子どもの実態と教育課題、及びその支援等の理解を深める。 また、高等学校英語科教諭に必要な英語学・英語コミュニケーション・異文化理解に関する基礎的知識を養う。
2年次	前期	人権侵害や差別の現状、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。また、今日における生徒指導上の諸問題に関する理論的・実践的な認識を身につけるとともに、高等学校教諭に必要な学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。さらに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する基礎的な知識・技能やデータの収集と理解の基礎となる考え方および基礎的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、高等学校英語科教諭に必要な英語学・英文学に関する基礎的知識を修得し、技能や方法を身につける。さらには、学校インターンシップによる現場観察・実習を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。
	後期	学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、今日の授業づくりの方法と技術を身につける。 教育ファシリテーションの理論的な背景、基礎に関する知識を学ぶとともに、現代までの教育から学習者中心の授業改善プロセスを構想する授業づくりの原理を理解する。さらに、生涯にわたる教師の発達と学習のあり方、および教師の学びを支える教員研修の意義及び制度上の位置づけを理解し、教師としての学びを実践する。 教材開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身につける。
3年次	前期	教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。 さらに、教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する発展的な知識・技能を学ぶとともに、多様なデータの特徴とその意義について理解し、応用的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、4技能の総合的な育成のための理論や指導技術を修得するため、英語学や英語教育学について専門的に学ぶ。さらに、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図る。
	後期	子ども理解と自治活動の指導を中心にして特別活動の視点を学ぶ。 加えて、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。 また、教育ファシリテーションの理論的な背景や現代的な諸論点に関する知識を学ぶとともに、学習者中心の授業改善のプロセスを構想する授業過程と教育評価に関する知識・技能を身に付ける。
4年次	前期	これまでの科目を修得した上で教育実習で附属学校や協力校での実習を行い、学校現場における経験から、成果と課題を再認識する。 教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。
	後期	4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。また、高等学校英語科教諭としての専門性を備えた卒業研究を行う。

様式第7号ウ（教諭）

<学校教育教員養成課程>（認定課程：高一種免（英語））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職へのとびら	英語音声学Ⅰ	ダイバーシティと教育	日本国憲法	
		発達と学習の心理学	Introduction to British and American Literature	現代社会と子どもの権利	スポーツ実技a	
			Intergrated EnglishⅠ	多様な子どもとインクルーシブ教育	情報活用基礎Ⅰ	
			Speech Communication in EnglishⅠ	教職のための省察入門	情報活用基礎Ⅱ	
	後期	教育総論	英語音声学Ⅱ	特別支援教育の実践	スポーツ実技b	
		特別支援教育の基礎	Speech Communication in EnglishⅡ	外国人の子どもの理解と支援		
			比較文化論			
2年次	前期	学校の役割と経営	Introduction to English LinguisticsⅠ	人権教育の基礎	外国語コミュニケーション	
		学校安全	History of British and American Literature	発達障害教育論		
		ICT活用の理論と方法	Intergrated EnglishⅡ	教科横断と探究学習Ⅰ		
		生徒指導論	Advanced CommunicationⅠ	教育データの活用Ⅰ		
		中等英語科教育法Ⅰ		中等英語科授業研究		
	後期	教育課程論(カリキュラム・マネジメントを含む。)	英文法研究	ファシリテーターとしての教員Ⅰ		
		教育方法論	応用言語学	学習者中心の授業デザインⅠ		
		進路指導論	Introduction to English LinguisticsⅡ	英語科評価論		
		中等英語科教育法Ⅱ	Advanced CommunicationⅡ			
	通年			教職インターンシップⅠ		
				教職専門性と省察		
	前期	総合的な学習の時間の指導法	英語学研究Ⅰ	小・中一貫教育概論		
		教育相談の理論と方法	Advanced CommunicationⅢ	教科横断と探究学習Ⅱ		
		中等英語科教育法Ⅲ		教育データの活用Ⅱ		

3年次	後期	特別活動論	英語学研究Ⅱ	道徳教育論		
		中等英語科教育法Ⅳ	Advanced Communication Ⅳ	人権教育の実践		
				ファシリテーターとしての教員Ⅱ		
				学習者中心の授業デザインⅡ		
	通年			教職インターンシップⅡ		
				特別支援学校インターンシップ		
4年次	前期	教育実習				
	後期	教職実践演習	Academic Writing			
	通年			連携協働活動演習		

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：特支一種免）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職の意義や教員の役割、職務内容について学び、教職への動機づけを図る。 子どもの発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸問題、教育測定と評価などについて理解するとともに、自身の被教育経験を相対化し、多様な学校教育の可能性に照らして個別具体的な学校現場の経験から学び続けるための素地を形成する。さらに、現代社会におけるダイバーシティの基本理念や子どもの諸権利、インクルーシブ教育の理念についての理解を深める。 また、特別支援学校教諭に必要な特別支援教育の基礎理論を身に付ける。同時に及び小学校教諭として必要となる各教科に関する基礎的知識・技能を修得する。
	後期	教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解する。外国にルーツのある子どもの実態と教育課題、及びその支援等の理解を深める。 また、障がい種ごとの観察実習や講義を通して、特別支援学校教諭として必要な特別支援教育の基礎的知識・技能を身に付ける。同時に及び小学校教諭として必要となる各教科に関する基礎的知識・技能を修得する。
2年次	前期	人権侵害や差別の現状、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。 また、今日における生徒指導上の諸問題に関する理論的・実践的な認識を身につけるとともに、特別支援学校教諭に必要な学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。さらに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する基礎的な知識・技能やデータの収集と理解の基礎となる考え方および基礎的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、特別支援学校教諭に必要な心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する知識を修得する。さらには、学校インターンシップによる現場観察・実習を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。
	後期	学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、今日の授業づくりの方法と技術を身につける。 教育ファシリテーションの理論的背景、基礎に関する知識を学ぶとともに、現代までの教育から学習者中心の授業改善プロセスを構想する授業づくりの原理を理解する。さらに、生涯にわたる教師の発達と学習のあり方、および教師の学びを支える教員研修の意義及び制度上の位置づけを理解し、教師としての学びを実践する。 また、特別支援学校教諭に必要な心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する知識を修得する。さらには、教材開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身につける。
3年次	前期	教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談(カウンセリングを含む)などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。 さらに、教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する発展的な知識・技能を学ぶとともに、多様なデータの特徴とその意義について理解し、応用的なデータ収集・分析の手法を修得する。 また、特別支援学校教諭に必要な心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理・生理・病理に関する知識を修得する。加えて、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。
	後期	子ども理解と自治活動の指導を中心にして特別活動の視点を学ぶ。また、特別支援学校教諭に必要な心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理・生理・病理に関する知識を修得する。 これまでの科目を修得した上で教育実習で附属学校や協力校での実習及び特別支援学校での実習を行い、学校現場における経験から、成果と課題を再認識する。さらに、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図る。 また、教育ファシリテーションの理論的背景や現代的な諸論点に関する知識を学ぶとともに、学習者中心の授業改善のプロセスを構想する授業過程と教育評価に関する知識・技能を身に付ける。
4年次	前期	教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。
	後期	4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。また、特別支援学校教諭としての専門性を備えた卒業研究を行う。

様式第7号ウ（特支）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：特支一種免）（基礎免許状となる課程：小一種免）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		基礎となる教諭の免許状に関する履修カリキュラム				その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	教育の基礎的理解に関する科目等	教科（領域）に関する専門的事項	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	特別支援教育に関する科目
1年次	前期	教職へのとびら	国語（書写及びICTの活用を含む。）	ダイバーシティと教育	日本国憲法	特別支援教育総論
		発達と学習の心理学	生活（ICTの活用を含む。）	現代社会と子どもの権利	スポーツ実技a	インクルーシブ教育システム基礎論
				多様な子どもとインクルーシブ教育	情報活用基礎Ⅰ	
				教職のための省察入門	情報活用基礎Ⅱ	
	後期	教育総論	算数（ICTの活用を含む。）	特別支援教育の実践	スポーツ実技b	点字指導法
		特別支援教育の基礎	体育（ICTの活用を含む。）	外国人の子どもの理解と支援		手話学習の基礎
			理科（ICTの活用を含む。）			
2年次	前期	学校の役割と経営	社会（ICTの活用を含む。）	人権教育の基礎	外国語コミュニケーション	視覚障害アセスメント論
		学校安全	音楽（ICTの活用を含む。）	発達障害教育論		視覚障害教育
		ICT活用の理論と方法		教科横断と探究学習Ⅰ		聴覚障害教育
		生徒指導論		教育データの活用Ⅰ		知的障害教育
		生活科教育法				肢体不自由教育
		初等家庭科教育法				病弱教育
						重複障害教育
						発達障害教育
	後期	教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）	図画工作（ICTの活用を含む。）	ファシリテーターとしての教員Ⅰ		聴覚障害アセスメント論
		教育方法論	家庭（ICTの活用を含む。）	学習者中心の授業デザインⅠ		言語障害教育
		進路指導論				視覚障害歩行指導法
		算数科教育法				
		図画工作科教育法				
		体育科教育法				
	通年			特別支援学校インターンシップ		
				教職インターンシップⅠ		
				教職専門性と省察		
3年次	前期	総合的な学習の時間の指導法		小・中一貫教育概論		視覚障害心理
		教育相談の理論と方法				聴覚障害心理
		初等国語科教育法（書写を含む。）		教科横断と探究学習Ⅱ		知的障害者の心理・生理・病理
		初等社会科教育法				肢体不自由者の心理・生理・病理
		初等理科教育法		教育データの活用Ⅱ		障害児アセスメント論
		初等音楽科教育法				病弱者の心理と健康行動学
						特別支援教育実践論
	後期	道德教育論	英語（ICTの活用を含む。）	人権教育の実践		病弱者の心理・生理・病理
		特別活動論		ファシリテーターとしての教員Ⅱ		障害児のキャリア教育
		初等英語科教育法		学習者中心の授業デザインⅡ		障害者の心理・生理・病理
		教育実習				視覚生理・病理
						聴覚音声生理・病理
						特別支援教育実習
	通年			教職インターンシップⅡ		
4年次	前期					聴覚障害指導論
						知的障害指導論
						肢体不自由指導論
						病弱指導論
						発達障害指導論
	後期	教職実践演習				視覚障害指導論
	通年			連携協働活動演習		